

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 山下 昭子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「スポーツアナトミー 」－人体解剖生理学－	共著	2014年 4月	(丸善出版社)		
論文					
Construction of an SNS site for elderly people and its problems	共著	2010年11月	Proceedings of the 9th Pan-Pacific Conference on Ergonomics	Masahiro Shibuya, <u>Akiko</u> Yamashita, Fumitaro Goto, Koki Mikami	

A sutudy on construction of a community tool with a social network service for uniting older and younger people	共著	2012年 5月	Ergonomics in Asia: Development, Opportunities, and Challenges, (Taylor & Francis Group, London, UK.) Selected papers of the 2nd east asian ergonomics federation symposium (EAEFS 2011), Hsinchu, Taiwan.	Masahiro Shibuya, <u>Akiko Yamashita</u> , Fumitaro Goto, Koki Mikami	
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	国内共同研究 エネルギー代謝率による心拍数予測式
	国内共同研究 適正運動処方設計のための一連続運動時間と生体機能変化
1967年 4月～現在に至る	日本体育学会(国内学会)会員
1970年 4月～現在に至る	日本レジャー・レクリエーション学会(国内学会)会員
1973年 7月～現在に至る	新日本製鉄「新日鉄讃歌」 作曲：山本直純 振付：山下昭子
1976年 4月～現在に至る	舞踊学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	社団法人中高年齢者雇用福祉協会講師（現在に至る）
1988年 4月～現在に至る	厚生労働省：中央労働災害防止協会講師（現在に至る）
1994年～現在に至る	財団法人「高年齢者雇用開発協会」共同研究年報
1994年 3月～現在に至る	日本体力医学会(国内学会)会員
1995年 4月～現在に至る	日本運動・スポーツ科学学会(国内学会)会員
1996年 9月～現在に至る	東京都庁：日本交通安全協会依頼「シートベルト体操」振り付
1997年 4月～現在に至る	厚生労働省：中央労働災害防止協会「運動指導士テキストブック」
1999年 4月～現在に至る	産業保健人間工学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	産業保健人間工学会(国内学会)理事
1999年 4月～現在に至る	(財) 神奈川体育協会 かながわ・ゆめ国体記念スポーツ振興基金 運営委員
2001年 4月～現在に至る	日本生涯スポーツ学会(国内学会)会員
2004年 9月～現在に至る	財団法人：日本予防医学協会依頼 青森県相馬村「りんご体操」振り付
2005年 4月～現在に至る	個人研究 健康管理のための適正運動処方の研究

2009年 4月～現在に至る

日本運動・スポーツ科学学会(国内学会)副会長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 宮崎 重勝	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1979年 4月～現在に至る		日本体育学会(国内学会)会員			
1987年 9月～現在に至る		日本体力医学会(国内学会)会員			

1987年10月～現在に至る	日本ゴルフ学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 バドミントン
2005年 4月～現在に至る	全日本学生バドミントン連盟 副会長
2005年 4月～現在に至る	関東学生バドミントン連盟 会長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 横倉 節夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
学生による授業評価アンケート結果の活用		2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：現代社会論Ⅰ) アンケート結果では板書について分かりやすい、見やすいとの評価を受けたが、時々、字が略してあって読みにくいとの指摘があったので、正確に板書するよう改善している。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年度前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：現代社会論Ⅰ) 学生による授業評価アンケートにおいて、「熱意がある」「授業のねらい」や講義の内容が明確であるなどの点で高い評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
神奈川大学自己点検・評価全学委員会委員長		2010年 4月 ～2013年 3月	左記委員会において、全学の自己点検・評価活動の企画及び実施に従事。		
神奈川大学FD・学生支援推進委員会委員長		2011年 4月 ～2013年 3月	左記委員会において、全学のFD活動の企画及び実施に従事。また、平成24年度の学生授業アンケートの企画及び実施に従事。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『東アジアの地域協力 と秩序再編』	共著	2012年 3月	(お茶の水書房 47-62)	秋山憲治、梁文秀、具甲祐、呉景平、田中則仁、金容福、張徐榮、金根植、李宇榮	

論文					
『東日本大震災と地域社会の諸問題』	単著	2012年 9月	『日中国交正常化40周年回顧と展望論文集』遼寧大学日本研究所神奈川大学152-161		
『論東日本大地震と地域社会的各種問題』（劉立善訳）	単著	2013年 3月	『日本研究』遼寧大学日本研究所、67-70		
その他					
「地方自治と主権者（市民）の関係を確かめよう」	単著	2010年 7月	国立公民館『くにたち公民館だより』605号、1-3		
「北東アジアにおける市民社会とそのネットワーク形成」	単著	2010年10月	神奈川大学アジア問題研究所・慶南大学校極東問題研究所シンポジウムと『東アジア地域協力と共同体構想』35-41		
「地域の中での孤立と孤独を考える」	単著	2012年 3月	神奈川県社会福祉協議会『民生委員児童委員研修報告書』1-4		
「社会関係資本と地域社会」	単著	2013年 4月	『神奈川新聞』平成25年4月8日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1972年 4月～現在に至る	日本社会学会(国内学会)会員
1985年～現在に至る	個人研究 技術革新と産業構造に関する研究
1996年～現在に至る	個人研究 沖縄の持続的発展に関する研究
2000年～現在に至る	個人研究 東アジアにおける国際秩序構築に関する研究
2005年 4月～現在に至る	個人研究 地域社会と市民自治に関する研究
2012年 4月～2013年 3月	大学基準協会・平成24年度大学評価委員会大学評価分科会 第25群委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 下田 節夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
自由な話し合いを中心にした授業		1983年10月 ～現在に至る	毎回、前週に配布した教材を読んできてもらう。当日教室では、10人程度の小集団に分かれて、その教材をもとに、リポーターを中心にして自由に話し合ってもらい、最後に、班ごとの経過を簡単に発表しあってもらい、さらに感想文を(個個人に)書いて提出してもらい、終わる。これによって、学生たちの授業への積極的な参加と、自己表現、さらに他者の話をよく聞く態度などを、ある程度育てることができたように思われる。(昭和58年10月～)
学外における心のケアの実践		2006年 4月 1日 ～現在に至る	心のケアに関する実際の体験をすることによって、机上の学習を超え、対人関係において相互に豊かなコミュニケーションを行う技量を身につけることを目的とする。実際の場面としては、中学校・高等学校・学童保育所・適応指導教室・児童養護施設・精神科クリニックなどに、学生がでかけ、そこで対象者と実際にかかわる。そこでの活動を大学に持ち帰り、体験した同士で活動を報告し合っ、それぞれの対象者とのかかわりについて振り返り、より豊かなかかわり方を目指す。なお、対象者のプライバシーが侵害されないように、守秘義務が守られている。
2 作成した教科書、教材			
なし			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
様々な種類のベーシック・エンカウンター・グループ		1988年 8月 ～現在に至る	一般から募集した参加者を対象に、2泊3日あるいは3泊4日間、小グループでの率直な話し合いを通して、相互に親しく交わり、それぞれが自己理解を深めるとともに、人としての存在を再確認するグループ活動を、年に数回行っている。

「グループ研究会」の共同主催		2013年 2月 ～現在に至る	エンカウンター・グループを基盤としつつ、様々なグループ・アプローチにかかわる実践家たちとの交流を趣旨とする会合を、年に数回開催している。		
5 その他					
学生相談室専任相談員としての活動		1983年10月 1日 ～現在に至る	週に3～4日、横浜キャンパス学生相談室に常駐し、相談に訪れる学生の相談全般に対応するほか、保護者からの相談、教職員との連携、心の問題にかかわるセミナーや合宿の実施に携わっている。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「グループなるもの」 についてーエンカウン ターグループについて の一つの見方	共著	2011年 3月	(『パーソンセンタード ・アプローチの挑戦ー現 代を生きるエンカウンタ ーの実際』(創元社))	伊藤義美・高松里・村久保雅孝 編著下記書所収の単著論考	113-122頁
エンカウンターグルー プ (EG)	共著	2014年 8月	(『[全訂] ロジャーズ ークライアント中心療法 の現在』(日本評論社))	村瀬孝雄・村瀬嘉代子編下記書 に所収の単著論考	
論文					
自分のペースで「引き こもり」からの復帰を 果たしていった男子学 生	単著	2011年 3月	大学カウンセラー資格認 定委員会事業報告書(日 本学生相談学会) (2)		
グループの「構成」と 「構造」ーエンカウン ターグループとサイコ ドラマの対話ー	共著	2014年 3月	跡見学園女子大学附属心 理教育相談所紀要 (第10号)	野島一彦・下田節夫・高良 聖 ・高橋紀子	27-37頁
その他					
私の「カウンセリング 」体験	単著	2010年 6月	学生相談室だより(神奈 川大学学生相談室)		1頁

グループでの参加者の心理的安全性を高めるにはー実践上の工夫ー	共著	2010年 9月	日本人間性心理学会第29回大会高等発表 日本人間性心理学会第29回大会発表論文集	本山智敬・三國牧子・村久保雅孝・永野浩二・都能美智代・下田節夫	160-161頁
書評『ロジャーズ事典』	単著	2010年 9月	人間性心理学研究(日本人間性心理学会) 28(1)		115-116頁
自分のペースで「引きこもり」からの復帰を果たしていった男子学生	単著	2011年 5月	日本学生相談学会第29回大会発表論文集		
書評：安部恒久著『グループアプローチ入門』	単著	2011年 6月	心理臨床学研究(日本心理臨床学会) 29(2)		227-229頁
コラム：EGと私	単著	2014年 6月	人間関係研究会HP		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1970年～現在に至る		個人研究 グループ・アプローチ			
1970年～現在に至る		個人研究 心理療法			
1975年～現在に至る		個人研究 学生相談			
1980年～現在に至る		日本精神分析学会(国内学会)会員			
1980年～現在に至る		日本芸術療法学会(国内学会)会員			
1982年～現在に至る		日本心理臨床学会(国内学会)会員			
1984年～現在に至る		日本集団精神療法学会(国内学会)会員			
1985年～現在に至る		日本人間性心理学会(国内学会)会員			
1985年～現在に至る		日本家族心理学会(国内学会)会員			
1985年～現在に至る		日本家族研究家族療法学会(国内学会)会員			
1989年～現在に至る		日本箱庭療法学会(国内学会)会員			
1989年 5月～現在に至る		一般社会人を対象としたエンカウンター・グループ。年に2～3回、2泊3日のエンカウンター・グループを実施。参加者は、毎回8名、要項を読んで申し込んだ人々で、年齢・性別・職業などは多様。形式は「非構成的」と言われるもので、グループが安心できる場になるように配慮し、そこで心を開いて、自由に語り合う。それを通して、参加者各自の自己理解と心理的な成長が促される。(現在に至る)			
1996年～現在に至る		日本トランスパーソナル学会(国内学会)会員			
1998年～現在に至る		日本トランスパーソナル心理学/精神医学会(国内学会)会員			

1999年 3月～現在に至る	多文化相互理解エンカウンター・グループ。毎年3月、民間の「人間関係研究会」の主催により、奈良県飛鳥で行われる企画に、スタッフの一員として参加。日本在住の外国籍の人たちと日本国籍の人たちが、言語や文化の違いを越えて、人格的に深く親密な交流をするための企画。7～8人の小グループと、40人程度の全体グループとからなるプログラムを通して、各人が安心して自由に自己表現できるように、援助している。（現在に至る）
2003年～現在に至る	日本学生相談学会(国内学会)会員
2006年 3月～現在に至る	日本カウンセリング学会(国内学会)会員
2014年 5月～現在に至る	日本学生相談学会第32回大会 準備委員長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 准教授	氏名 横溝 亮一	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
ディスカッションの重視	1987年 4月 ～現在に至る	毎時前述した自己作業をさせた上で、5・6名のグループに分けて、自己作業をお互いに発表し、自分と皆との共通点、相違点を明らかにし、そのことによって自分の感じ方・見方が自分独自のものであること、又、自分の視点以外に多くの視点があることに気づかせる作業を行っている(昭和62年4月～)	
レポートでの体験確認の作業	1987年 4月 ～現在に至る	毎時授業の最後に10～15分ほどの時間をとり、その回にした自己作業、話し合いの中での体験をレポートで提出させ、体験したことの言語化と整理につとめている(昭和62年4月～)	
体験を重視した授業の実施	1987年 4月 ～現在に至る	講師の一方的な講義を排し、毎時、カウンセリングに関連する様々な作業を学生に実施し、カウンセリングを体験的に理解できるような工夫を毎時実施している。(昭和62年4月～)	
多人数の授業でのグループ・ワークの実施	2008年 4月 ～現在に至る	90名という多人数の授業においてグループ・ワークに挑戦してみた。批判的な意見もあったが、多くは、グループ・ワークにより、他者の様々な意見を聞く機会が多く参考になった。発言の練習になった。一人一人を大切にしてくれた。臨床系の授業の中で一番実践的で明確だと思った。カウンセリングの流れを知ることができ、心理コースだなあという実感が湧いた。等々の肯定的な評価を数多く受けた。	
2 作成した教科書、教材			
なし			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
なし			
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
新版「ロジャーズ ク ライエント中心療法ー カウンセリングの核心 を学ぶ」	共著	2011年 5月	(有斐閣)	佐治守夫、飯長喜一郎、渡邊考 憲、横溝亮一、鶴飼美昭、佐々 木正宏、無藤清子	
論文					
面接初期における治療 関係とドロップアウト に関する一考察 (査読 付)	共著	2011年 3月	神奈川大学心理相談セン ター紀要『心理相談研究 』 (2号)	山口玄太、横溝亮一、杉山 萗、佐藤梨花、磯崎 英里香、神戸早紀、五味美奈子	143-153頁
その他					
ゼミ生の募金活動につ いて	単著	2012年 8月	成井ゼミナール・横溝ゼ ミナール「活動報告」募 金活動・わくわく親子の レフレッシュバス旅行		
相談するということ	単著	2012年10月	学生相談室だより		
私がそこに居続けるこ と	単著	2014年 1月	NPO法人朝日カウンセ リング研究会 6		19-20頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		日本家族研究・家族療法学会(国内学会)会員			
		日本心理臨床学会(国内学会)会員			
		日本精神分析学会(国内学会)会員			
1995年 5月～現在に至る		日本学生相談学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 カウンセリングの学習方法の研究			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 青年期の葛藤に対する教育的治療的関わりの研究			
2010年 4月～2011年 3月		AC0女性のためのカウンセリングルーム主任スーパーバイザー			
2010年 4月～2014年 3月		産業カウンセリング協会 産業カウンセラー試験実技試験試験官			

2010年 4月～2014年 3月	郡山心理研究会講師
2011年 4月～2014年 3月	ACO女性のためのカウンセリングルーム 主任スーパーバイザー
2013年 4月～2014年 3月	<自立>カウンセリング研究所 監督者実習講師
2013年 4月～2014年 6月	日本学生相談学会第32回大会準備委員会 準備委員
2014年 5月～2014年 5月	日本学生相談学会第32回大会準備委員会企画シンポジウム「多角的ケース検討」 シンポジウム司会

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 三星 宗雄	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
授業におけるWebページの利用 (現在に至る)		2000年 4月 ～現在に至る	授業内容(板書内容)をwebページで公開し、学生には授業中話を聞くことに専念させた。ページにアクセスするためのパソコンの操作スキルの向上も見られ、また予習復習の役に立っている。		
2 作成した教科書、教材					
教科書の作成		2006年 3月 ～現在に至る	心理学の各分野を専門とする研究者(教員)と共に心理学の全分野をカバーする教科書を作成した。(書名 角山剛・小西啓史・三星宗雄・渡辺浪二編著『基礎から学ぶ心理学(第二版)』,ブレーン出版,2006年(再掲))		
教科書の作成		2006年 4月 ～現在に至る	三星宗雄著『環境色彩学の基礎』		
教科書の作成		2008年 4月 ～現在に至る	三星宗雄著『色の心理学』		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

『世界の色の記号－自然・言語・文化の諸相－』	共著	2011年 3月	(御茶の水書房)	三星宗雄・畑田明信・尹亨仁・彭国躍・小林潔・新木秀和・八久保厚志・山本俊雄・星野澄子・行廣清玉・車貞ミン・加藤薫・矢野博	
『考えるための心理学』	共著	2012年 4月		荒川歩, 浅井千絵	
『色彩の快：その心理と倫理』	単著	2014年 3月	(御茶の水書房)		
論文					
イメージ上で飛来するバレーボールの回転方向の認知－反応時間を用いた3種類のボールの評価－	共著	2010年 4月	『神奈川大学人間科学研究年報』(4)	三星宗雄, 畑田明信, 矢野博	5-16頁
韓国色彩事情	単著	2010年 9月	神奈川大学『人文研究』171		1-22頁
調和と美の間：ムーンとスペンサーの色彩調和論をめぐる2, 3の問題	単著	2010年12月	神奈川大学『人文研究』172		29-54頁
遠感覚・近感覚再考	単著	2010年12月	神奈川大学『人文学研究所報』44		73-88頁
カラーユニバーサルデザインの実現に向けて	単著	2011年 3月	神奈川大学『人文研究』173		127-156頁
ユニバーサルデザインはどこにある	単著	2011年 3月	神奈川大学『人文学研究所報』45		1-21頁
ランドスケープとアメニティ	単著	2011年 3月	神奈川大学『人間科学研究年報』5		5-22頁

色彩言語から連想される色彩イメージの交叉文化的研究－日本人、韓国人および日本在住韓国人を対象に－	共著	2011年 3月	神奈川大学『人文研究』 173	車貞玟・三星宗雄	157-180頁
風景の中の自販機	単著	2011年 9月	神奈川大学『人文研究』 174		95-113頁
日本における騒色公害の系譜とその解決	単著	2011年10月	『人文学研究所報』 46		35-51頁
色彩地理学の可能性	単著	2011年12月	神奈川大学『人文研究』 175		65-93頁
色弱模擬フィルターを通じた色彩感情	単著	2012年12月	『神奈川大学人文研究』 178		31-52頁
騒色公害と景観問題－実態と解決策－	単著	2013年 8月	神奈川大学人文学研究所 報 50		41-67頁
中国における講演と国際交流の一断面	単著	2013年 9月	神奈川大学人文研究 180		25-68頁
The image of color with different shapes and in different motions	単著	2013年12月	神奈川大学人文研究 181		1-21頁
色の力・明るさの力	単著	2014年 3月	神奈川大学人文研究 182		1-21頁
多民族国家マレーシアの色彩	単著	2014年 8月	『神奈川大学人文学研究所報』 52		59-76頁
中国・瀋陽周辺の歴史的色彩と環境色彩	単著	2014年 9月	神奈川大学「人文研究」 183		63-95頁
色彩のハイブリッド：京都の色彩断片	単著	2014年12月	神奈川大学『人文研究』(神奈川大学人文学会) 184		1-18頁
その他					
騒色公害と景観問題－実態と解決－	単独	2013年 6月	中国湖南省城市学院招待講演(中国湖南省 湖南城市学院)		

The image of colors with different shapes and in different motions	単独	2013年12月	The 1st Conference of the Asia Color Association (Thailand) (Rajamangala University of Technology Thanyaburi)		
The image of colors with different shapes and in different motions (査読付)	単著	2013年12月	Proceedings Book of the 1st Asia Color Conference (Thailand)		44-47頁
Vending machines in a landscape:A potential public color pollution in Japan	単独	2014年 9月	The 2nd Conference of the Asia Color Association (Taipei) (Chinese Culture University, Taipei, Taiwan)		
Vending machines in a landscape:A potential public color pollution in Japan (査読付)	単著	2014年 9月	Conference Proceedings of the 2nd Conference of Asia Color Association (Taipei)		22-25頁
色弱模擬フィルターを通した色彩感情	共同	2014年 9月	日本心理学会第78回大会 (同志社大学, 京都)	野口由梨亜	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1974年 4月～現在に至る	日本色彩学会(国内学会)会員				
1975年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員				
1981年 5月～現在に至る	北海道心理学会(国内学会)会員				
1982年 4月～現在に至る	日本基礎心理学会(国内学会)会員				
1989年 4月～現在に至る	照明学会(国内学会)会員				
1995年 4月～現在に至る	個人研究 自然の色彩／都市の色彩				
2003年 3月～現在に至る	日本バレーボール学会(国内学会)会員				
2003年 4月～現在に至る	個人研究 スポーツと色彩				
2005年 4月～現在に至る	個人研究 カラーコーディネーション				
2005年 4月～現在に至る	日本体育学会(国内学会)会員				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 大後 栄治	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
大学生アスリートのライフスキル獲得に関する研究 —コミットメント・情熱・ストレスの関 係性に着目した検討— (査読付)	共著	2013年 4月	日本学校メンタルヘルス 学会「学校メンタルヘル ス」 2012 Vol. 15 (No. 2)		P260-267頁

大学生の運動参加形態とストレス反応低減効果の関係（査読付）	共著	2013年 9月	日本ストレスマネジメント学会「ストレスマネジメント研究」 Vol. 10 (No1)		p39-48頁
スポーツ活動がライフスキルの獲得に与える影響性 —大学生版ライフスキル尺度の開発による検討—	共著	2014年 3月	神奈川体育学会紀要「体育研究」 (47)	八田直紀、清水安夫、太後栄治	14-21頁
その他					
第87回箱根駅伝シンポジウム		2010年11月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網（ 恵比寿ガーデンプレイス）		
第87回箱根駅伝「監督トークバトル」		2010年12月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網（ 恵比寿ガーデンプレイス）		
第88回箱根駅伝シンポジウム		2011年11月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網（ 恵比寿ガーデンプレイス）		
第88回箱根駅伝「監督トークバトル」		2011年12月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網（ 恵比寿ガーデンプレイス）		

講習会：トレーニング 概論		2012年 6月	スポーツ鍼灸マッサージ 指導者育成講習会 公益 社団法人 全日本鍼灸マ ッサージ師会 (フクラ シア浜松町)		
特別講演「箱根駅伝を 目指すチームづくり」		2012年 9月	第21回神奈川県暴力追放 県民大会 (公財) 神奈 川県暴力追放推進センタ ー (神奈川県立音楽堂)		
研究発表：大学生アス リートにおけるライフ スキル獲得に関する研究 —ライフスキル獲得を 妨げる要因に着目して — (査読付)	共著	2012年10月	第16回神奈川体育学会 (K GU関内メディアセンタ ー)		
第89回箱根駅伝シンポ ジウム		2012年11月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網 (恵 比寿ガーデンプレイス)		
第89回箱根駅伝「監督 トークバトル」		2012年12月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網 (恵 比寿ガーデンプレイス)		
研究発表：大学生の運 動状況がライフスキル に与える影響 (査読付)	共著	2013年 2月	日本体育測定評価学会 第12回大会 (湘南とつ かYMCA専門学校)		

研究発表：大学生の運動状況とストレス反応に関する研究（査読付）	共著	2013年 3月	九州スポーツ心理学会 第26回大会		
研究発表：大学生アスリートにおけるライフスキル獲得に関する研究 —ストレス認知を媒介変数としての検討—（査読付）	共著	2013年 3月	第19回日本行動医学会学術総会（東邦大学）		
研究発表：A Study of Life Skills Acquisition for University Athletes.（査読付）	共著	2013年 6月	European College of Sport Science (Barcelona, Spain)		
講習会：トレーニング概論		2013年 6月	スポーツ鍼灸マッサージ指導者育成講習会 公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会（東京ファッションタウンビル）		
研究発表：A Study on Stress Model Focusing on Positive Psychology.（査読付）	共著	2013年 8月	The 5th Asian Congress of Health and Psychology (Deajeon, Korea)		
研究発表：大学生の運動参加によるストレス反応低減効果（査読付）	共著	2013年 9月	第11回日本スポーツ精神医学会学術集会（愛知・犬山国際観光センター）		
研究発表：スポーツ経験がライフスキルの獲得に与える影響（査読付）	共著	2013年10月	第17回神奈川体育学会（神奈川大学）		

第90回箱根駅伝シンポジウム		2013年11月	関東学生陸上競技連盟 読売新聞社 報知新聞社 日本テレビ放送網		
第90回箱根駅伝「監督トークバトル」		2013年12月			
講座：箱根駅伝90回目の節目を迎えて		2013年12月	日テレ学院 第一線で活躍する人から学ぶ講座		
神奈川スポーツサミットー「走る」を再考するー		2014年 2月	神奈川大学		
疲労骨折の早期発見「大学駅伝から考える疲労骨折の現状」	共著	2014年 3月	『月刊スポーツメディスン』（ブックハウスエイチディ）26(2)	大後栄治神奈川大学人間科学部教授、陸上競技部監督、関東学生陸上競技連盟駅伝対策委員長 松永道敬神奈川大学人間科学部非常勤講師、同大学スポーツ推進室アスレティックディレクター	15-20頁
講演：「箱根駅伝の魅力とは何か」		2014年 4月	特定非営利活動法人 ヴイエムシー 第110回ハーバークラブ講演会（横浜情報文化センター）		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1989年 4月～現在に至る		日本体育学会(国内学会)会員			
1989年 6月～現在に至る		日本体力医学会(国内学会)会員			
1990年 2月～現在に至る		ランニング学会(国内学会)会員			
1996年11月～現在に至る		陸上競技部コーチ。第28回全日本大学駅伝対校選手権大会優勝（初）。			
1997年 1月～現在に至る		陸上競技部コーチ、第73回東京箱根間往復大学駅伝競走優勝（初）（往路優勝、復路2位、総合優勝）			
1997年11月～現在に至る		陸上競技部監督、第29回全日本大学駅伝対校選手権大会優勝。大会新記録（5：17：18）優秀監督賞受賞			
1998年 1月～現在に至る		陸上競技部監督、第74回東京箱根間往復大学駅伝競走優勝（往路優勝、復路優勝、総合優勝）			
2001年 4月～現在に至る		日本運動・スポーツ科学学会(国内学会)会員			
2001年 4月～現在に至る		日本運動生理学会(国内学会)会員			
2004年 3月～現在に至る		スポーツサポート機構(sports supporting organization:SSO) 委員			

2005年 1月～現在に至る	アスリートのためのライフスキルプログラム(LSP)研究会 会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 長距離ランナーのトレーニング強度に関する研究
2007年 4月～現在に至る	関東学生陸上競技連盟 評議員
2007年 4月～2014年 3月	関東学生陸上競技連盟駅伝対策委員会 委員長
2008年 4月～現在に至る	日本学生陸上競技連合 正会員
2009年 3月～現在に至る	世界クロスカントリー選手権大会 (ヨルダン・アンマン) コーチ
2010年 3月～現在に至る	日本陸上競技連盟U-23ニュージーランド合宿 (ネルソン) コーチ
2010年 4月～現在に至る	日本学生陸上競技連合ロード競技対策小委員会 委員
2010年 4月～現在に至る	日本学生陸上競技連合強化委員会 委員
2013年 4月～現在に至る	公益財団法人 大田区体育協会 理事
2013年11月～現在に至る	2013国際千葉駅伝 日本学生選抜男女混合チーム 監督
2014年 4月～現在に至る	関東学生陸上競技連盟駅伝対策委員会 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 加納 善子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
基礎ゼミナールにおける思考レベルの向上		2003年 4月 1日 ～現在に至る	学部1年生のために大学での勉強の仕方、とくに自分で問題を発見し、自分で問題を解決していくための、思考能力を養う方法を工夫する。(平成15年4月1日)		
授業評価に関するアンケート		2003年 4月 1日 ～現在に至る	前期末と後期末に授業評価に関するアンケートを実施した。それを受けてなるべく学生の希望の多くを次学期、あるいは次年度の授業に反映していくために、その都度シラバスを改善している。		
専門ゼミナールにおけるボランティア活動の紹介		2008年 4月 1日 ～現在に至る	在日アジア人の人々のくらしを理解するために、東京・横浜におけるボランティア活動を紹介し、また実際に見学する(平成20年4月1日)		
2 作成した教科書、教材					
『フィリピンの環境とコミュニティ：砂糖生産と伐採の現場から』(共著：明石書店)		2000年 9月 ～現在に至る			
『歴史と英雄：フィリピン革命百年とポストコロニアル』(神奈川大学評論ブックレット11)(御茶の水書房)		2000年10月 ～現在に至る			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
専門社会調査士(八条規定)		2008年10月 1日 ～現在に至る	社会調査士資格認定機構による資格取得(平成20年10月8日)		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

The Philippines and Japan in America's Shadow	共著	2011年 3月	(National University of Singapore Press)	co-edited with Kiichi Fujiwara	
アメリカの影のもとで：日本とフィリピン	共著	2011年 6月	(法政大学出版局)	藤原帰一と共編	
America's Informal Empires: Philippines and Japan	共著	2012年 9月	(Anvil Publishing, Manila)	Kiichi Fujiwara	
植民地近代性の国際比較：アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験	共著	2013年 3月	(御茶の水書房)		
<i>State and Finance in the Philippines, 1898-1941: The Mismanagement of an American Colony</i>	単著	2015年 2月	(Ateneo de Manila University and National University of Singapore Press)		1-248頁
論文					
The Emergence of Modern Banking System in the Philippines during the American Colonial Period (査読付)	単著	2011年12月	Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 213		
The Philippine National Bank and Lending in Agriculture: 1916-1930 (査読付)	単著	2011年12月	Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 212		
The Philippine National Bank and Credit Inflation after World War I (査読付)	単著	2012年 1月	Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 216		
その他					

書評：千葉芳広著『フィリピン社会経済史：都市と農村の織り成す生活世界』（北海道大学出版会、2009年）	単著	2010年11月	社会経済史学 76(3)		154-155頁
Jose Rizal and Japanese Emperor in America's Shadow	単著	2011年 6月	International Sesquicentennial Conference: "Rizal in the 21th Century: Local & Global Perspectives"		
Book Review: Ann L. Foster. Projections of Power: The United States and Europe in Colonial Southeast Asia, 1919-1941. Durham and London:Dukue University Press, 2010, xii+241p. (査読付)	単著	2011年12月	Tonan Ajia Kenkyuu (Southeast Asian Studies) Kyoto University 49(3)		532-534頁
The Emergence of Modern Banking System in the Philippines during the American Colonial Period	単著	2012年 3月	Mini Workshop on Philippine Hisotrical Eeoomics Statistics		

Aftermath of the Philippine National Bank's Crisis of 1919-1921: The Arrest of Venancio Concepcion and the Abolition of the Board of Control	単著	2012年10月	9th International Conference on Philippine Studies		
Pasyon and Revolution and Postcolonialism: From Glenn May's critique by Inventing a Hero to the Transcultural Battlefield of its Japanese Translation	単著	2013年 2月	Historiography and Nation since Pasyon and Revolution Ateneo de Manila University		
Philippine National Bank: American Colonial State and Finance, 1898-1941	単著	2013年 2月	School of Economics, University of the Philippines, Diliman		
フィリピンの反米ナショナリズムと歴史論争	単著	2014年 1月	敬愛大学国際学部研究会		
書評:早瀬晋三著『フィリピン近現代史のなかの日本人:植民地社会の形成と移民・商品』	単著	2014年 2月	社会経済史学 79(4)		122-124頁
The Philippine National Bank: The American Colonial State and Finance: Understanding the Philippine Financial Crisis 1919-1922 (査読付)	単著	2014年 3月	Association of Asian Studies (AAS) 2014		

The Philippine National Bank and Lending in Agriculture: 1916-1930 (査読付)	単著	2014年11月	Philippine Studies Conference: "Philippine Studies in the 21st Century: Mapping the Shifting Terrans of Inquiry"		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1978年12月～現在に至る		東南アジア学会 (旧・東南アジア史学会) (国内学会) 会員			
1980年 6月～現在に至る		アジア政経学会 (国内学会) 会員			
1983年 6月～現在に至る		社会経済史学会 (国内学会) 会員			
1991年 4月～現在に至る		財団法人 国際開発センター 研修部 開発エコノミストコース 講師			
1992年 5月～現在に至る		財団法人 国際開発センター 研修部 開発エコノミストコース 講師			
1992年 5月～現在に至る		(財) 国際開発センター 研修部 開発エコノミストコース 講師			
1994年 8月～現在に至る		事前研修会 講師 「外国への女性派遣事業」 東京都生活文化局 女性青年部 女性計画課			
1995年 9月～現在に至る		横浜市海外交流協会 第9回 青少年スタディツアー 事前研修会 講師			
1996年 6月～現在に至る		国際交流基金 アジアセンター 「アジア理解講座」 「フィリピンの社会と人々」 講師			
2000年 2月～現在に至る		東京都品川区教育委員会 区民大学 「アジア文化の足跡」 講師			
2000年 3月～現在に至る		アメリカ・アジア学会 (国際学会) 会員			
2000年10月～現在に至る		横浜市教育委員会 よこはま市民カレッジ 「21世紀のアジアと日本ー新たな関係構築を目指して」 講師			
2003年 3月～現在に至る		学術振興野村基金 海外派遣助成25万円 (第55回全米アジア学会出席)			
2004年 1月～現在に至る		学術雑誌: Philippine Studies (Ateneo de Manila University) 国際諮問委員会 委員			
2004年 6月～2012年10月		国際フィリピン研究会 議事委員会 (国際学会) 会員			
2005年 7月～現在に至る		アジア政経学会 (国内学会) 評議員 選挙人			
2006年 9月～現在に至る		九浦の家 アジアを知らう XIV 「フィリピン 第1回 歴史と文化」 講師			
2008年 4月～2010年11月		第2回 国際フィリピン研究会 議事委員会 日本大会 諮問委員会 委員			
2008年 6月～2011年 3月		機関内共同研究 (神奈川大学共同研究奨励助成金) 6,000,000円 「非対称的関係」の克服と法の役割			
2008年 9月～現在に至る		学術雑誌: Malay (De La Salle U-Manila) 国際諮問委員会 委員			
2009年 2月～現在に至る		早稲田塾 Good Professor			
2009年 6月～2012年 3月		機関内共同研究 (神奈川大学共同研究奨励助成金) 6,000,000円 植民地近代性の国際比較: アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験			
2009年 9月～現在に至る		社会経済史学会 第78回 全国大会 司会者			
2009年11月～現在に至る		跡見学園: 卒業生を迎えるシンポジウム 「マイライフ」 パネリスト			
2010年 4月～現在に至る		学術雑誌: Journal of History (Philippine National Historical Society) 国際諮問委員会 委員			
2010年10月～現在に至る		アジア政経学会 2010年度 全国大会 司会者 兼 討論者			

2010年11月～現在に至る	第2回国際フィリピン研究会議日本大会 パネル座長
2011年 5月～2012年 3月	国内共同研究（一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業）1,000,000円 フィリピン長期経済統計の作成と分析
2011年 5月～現在に至る	社会経済史学会第80回全国大会 司会
2012年 6月～2014年 2月	第3回国際フィリピン研究会議日本大会 諮問委員会委員
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 4,940,000円 「基盤研究（C）」20世紀フィリピン長期経済統計の作成と分析（研究代表者）
2013年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究（一橋大学経済研究所）4,940,000円 20世紀フィリピン長期経済統計の作成と分析
2013年 7月～現在に至る	機関内共同研究（神奈川大学人文学研究所）帝国とナショナリズムの言説空間
2014年 4月～2015年 3月	公益財団法人 大学基準協会 大学評価委員会大学評価分科会第48群委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 小馬 徹	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
ゼミI・ゼミII・卒業研究			1) 毎回(a)その日までの一週間に起きた興味深い出来事の報告・討論用資料(各学生作成分・教員作成分)配布 2) 口頭プレゼンテーション、文書によるプレゼンテーション(レポート・論文)用マニュアルの配布 3) 2009年度は『2009年度卒業論文集』(印刷製本、A4版114頁)作成・配布
レポート・論文の徹底した添削による文書プレゼンテーション力向上			
全講義科目			1) 毎回の授業で講義の梗概(A4の用紙で2-8頁)と参考資料(A3の用紙で1-10頁)を配布 2) 適宜小テストを実施、幾つかの答案を実例として次回の講義冒頭で解題
初年度ゼミ(FYS)			1) 全学部で配布される共通資料の他に、独自の(a)口頭でのプレゼンテーションの仕方のマニュアル、(b)文書でのプレゼンテーションのマニュアル並びにその実例資料を配布して指導 2) 各年度の口頭プレゼンテーションの「レジュメ集」(草稿版、添削版、完成版各一冊)作成・配布 3) 「レポート集」(草稿版、添削版、完成版各一冊)作成・配布
基礎ゼミ			1) (a)口頭プレゼンテーション用マニュアル、(b)文書によるプレゼンテーション用マニュアル配布して指導 2) 口頭プレゼンテーション用レジュメ、並びにレポートの実例資料の作成・配布 3) 「レポート集」(草稿版、添削版、完成版〔印刷製本〕各一冊)作成・配布
2 作成した教科書、教材			
各講義ごとにA4で4頁の独自の講義レジュメと資料と作製・配布			

3	教育上の能力に関する大学等の評価				
	かつて兼任した神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科に関する「文部省教員組織審査」でM(合)、D(合)の判定を受ける				
4	実務の経験を有する者についての特記事項				
	神奈川大学公開市民講座で講師を務めた。大分県日田市、熊本県菊池市、福岡県田主丸町（現久留米市）の市民講座で講演した。				
5	その他				
	日本民族学会(現日本文化人類学会)で教育関連委員を務めた。市民向けシンポで講演。				
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ライオンの咆哮のとどろく夜の炉辺で-南スーダン、ディンカの昔話	単著	2010年 6月	(青娥書房)		1-191頁
一つの軌跡 西郷信綱洋書蔵書目録	共著	2011年 3月	(自費出版(西郷みち子))	西郷みち子、青木忠洋	76-82頁
読解レヴィ=ストロース	共著	2011年 6月	(青弓社)	出口顕、川田順造、田島節夫、作田清、小林康夫、小田亮、佐藤康行、仲川裕里、渡辺公三、渡邊一民、伊藤氏貴、三浦篤	289-297頁
グローバル化の中の日本文化	共著	2012年 3月	(御茶の水書房)	水野晴光、赤坂治績、米重文樹、中本信幸、大須加史和、鈴木幸子、アリーナ・サヴィノワ	5-38頁
ケニアを知るための55章	共著	2012年 7月	(明石書店)	津田みわ、松田素二、慶田勝彦、湖中真哉、石田真一郎、宮本正興、吉田昌夫、太田至、他	205-209頁
世界地名大事典第3巻 [中東・アフリカ]	共著	2012年11月	(朝倉書店)	竹内啓一、熊谷圭一、山本健兒、島田周平、加藤博、他	194-195, 254, 1036, 1123頁

植民地近代性の国際比較-アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験	共著	2013年 3月	(御茶の水書房)	永野善子、泉水英計、尹健次、岡田泰平、村井寛志、高木玲、中林伸浩、菅原昭、後藤政子	247-278頁
日本怪異妖怪大辞典	共著	2013年 7月	(東京堂出版)	小松和彦、常光徹、山田奨治、飯倉義之	478-479頁
世界民族百科大事典	共著	2014年 3月	(丸善)	杉本良男、須藤健一、宇田川妙子、岸上伸啓、栗本英世、吉田憲司	648-649頁
境界を生きるシングルたち	共著	2014年 3月	(人文書院)	椎野若菜、宇田川妙子、高橋絵里香、新ヶ江章友、馬場淳、田所聖志、辻上奈美江、岡田あおい、阪井裕一郎、田中雅一、上杉妙子、花淵馨也	253-274頁
河童とはなにか	共著	2014年 3月	(岩田書院)	常石徹、木場貴俊、香川雅信、立石尚之、和田寛、飯倉義之、大島健彦、三好周平、松村薫子、小池淳一	71-132頁
論文					
「味噌買橋」の渡り方-民俗学と歴史学はいかにして出会えるのか	単著	2010年 7月	『神奈川大学評論』第66巻		149-161頁
T V劇のケニア化とシェン語-ストリート言語による国民文学の新たな可能性	単著	2011年 3月	『歴史と民俗』(平凡社) 27		215-247頁
Toward a Tentative Comparison with Japan's Language Policies in Its Colonies: Making Swahili as an Official Language in the British East Africa	単著	2011年11月	Southeast Asian Studies Department, National University of Singapore Comparative Studies on Asia: Colonialism and Modernity		12頁

北の河童・南の河童とその時代	単著	2012年 3月	『歴史と民俗』（平凡社） 28	183-215頁
知のパラダイム転換と教養教育-そして個人研究費について	単著	2012年 3月	『教養の風』（横浜キャンパス共通教養系科目教育協議会） （第5号）	10-14頁
北の河童・南の河童とその歴史	単著	2012年 7月	『河童とはなにか』国立歴史民俗博物館	10-13頁
ルワンダの奇跡と美容整形	単著	2012年11月	『神奈川大学評論』 第73巻	202-211頁
河童とロシア提督ゴロヴニン-そっくりな南北の河童	単著	2012年11月	『怪』（角川書店） 第37巻 [カドカワムック 462]	38-43頁
解題「不幸なる研究」の新たなかたり	単著	2012年12月	『歴史と民俗』（平凡社） 28	8-20頁
村上春樹の「文化」と閻連科の「文化」-歴史思想としての文化概念	単著	2013年 3月	『神奈川大学評論』 第74巻	112-126頁
夢見る頃を過ぎても	単著	2013年 4月	『西郷信綱著作集月報』（平凡社） 第8巻	8-10頁
諺の現代アフリカへの可能な貢献-ケニアのキプシギス社会を例として	単著	2013年11月	慶応義塾大学言語教育研究フォーラム 『ことわざと現代社会』 ことわざ学会・「地球ことば村」	22-23頁
アフリカの怪なる音-放屁し、疾駆するナイトランナー	単著	2014年 4月	角川書店 怪 第41巻 カドカワムック536	58-63頁
アフリカとLGBTも権利-ヒトを人間化した婚姻制度の行方	単著	2014年11月	神奈川大学評論 79	117-137頁

贈り贈られる喜びの秘密	単著	2014年11月	EXPRESS 3(12)		10-14頁
贈り贈られる喜びの秘密	単著	2014年11月	てんとう虫 46(12)		10-13頁
アフリカの人々と夢－ 霊性と実体性	単著	2014年12月	怪(カドカワムック562) 43		63-67頁
書評「山本幸司著『大 学一年生の文法作法』 」	単著	2015年 3月	神奈川大学評論 80		
その他					
埼玉大学文化人類学両 神調査会編『両神の民 俗世界』	単著	2011年 3月	『神奈川大学評論』 第68巻		129頁
香月洋一郎著『馬耕作 教師の旅-「耕す」こ との近代』	単著	2011年 7月	『神奈川大学評論』 第69巻		136-137頁
福田アジオ他著『図解 案内 日本の民俗』	単著	2012年 3月	『神奈川大学評論』 第71巻		94-95頁
ヒトはそもそもなぜギ フトを贈るのか	単著	2013年11月	毎日新聞社 (スペース 第395号)		8頁
板垣貴志著『牛と農村 の近代史』	単著	2014年 3月	『神奈川大学評論』 第77巻		231-232頁
M先生の年賀状不定期 便-人文学会と私	単著	2014年 3月	『人文研究』 神奈川大学人文学会 第 182巻		13-16頁
キリンパリを魅了し たオスマン帝国の贈り 物	単著	2014年11月	EXPRESS 3(12)		4頁
キリンパリを魅了し たオスマン帝国の贈り 物	単著	2014年11月	てんとう虫 46(12)		4頁
言葉と手紙-心に形を 与える贈り物	単著	2014年11月	EXPRESS 3(12)		1028頁
言葉と手紙-心に形を 与える贈り物	単著	2014年11月	てんとう虫 46(12)		19頁

豪華な贈り物が育んだ日本の都市祭礼文化	単著	2014年11月	EXPRESS 3(12)		10-14頁
豪華な贈り物が育んだ日本の都市祭礼文化	単著	2014年11月	てんとう虫 46(12)		19頁
アフリカの植民地近代性	単独	2015年 1月	『アフリカ地域研究会』 第208回 (京都大学アフリカ地域研究資料センター/日本アフリカ学会関西支部)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1977年 4月～現在に至る		日本アフリカ学会(国内学会)会員			
1979年 7月～現在に至る		The British Institute in Eastern Africa 会員			
1981年 4月～現在に至る		九州人類学研究会 会員			
1986年 4月～現在に至る		比較家族史学会(国内学会)会員			
1992年 3月～現在に至る		日本ナイル・エチオピア学会(国内学会)会員			
1998年 4月～現在に至る		日本民俗学会(国内学会)会員			
2003年 6月～現在に至る		神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究の非文字資料の体系化」研究推進者			
2004年 4月～現在に至る		日本文化人類学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 ナショナリズム			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 口承史と歴史意識			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 国家主導の社会・文化変化と地域的適応			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 民族のアイデンティティの社会変容			
2007年 3月～現在に至る		東部および南部アフリカにおける自由化とエスノナショナリズムの波及に関する文化人類学的現地研究・第4次〔ケニア、英国〕			
2007年 4月～現在に至る		日本ナイル・エチオピア学会(国内学会)評議員			
2009年 2月～現在に至る		東部および南部アフリカにおける自由化とエスノナショナリズムの波及に関する文化人類学的現地調査〔ケニア〕			
2012年 4月～現在に至る		「学会奨励賞」(日本文化人類学会) 審査委員			
2012年 4月～現在に至る		「学会賞」(日本文化人類学会) 審査委員			
2013年 4月～現在に至る		「学会奨励賞」(日本文化人類学会) 審査委員			
2013年 4月～現在に至る		「学会賞」(日本文化人類学会) 審査委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 古屋 喜美代	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
ディスカッション、事例アセスメント演習の活用		2000年 4月 ～現在に至る	(授業科目：生徒指導論Ⅱ) 学生によるディスカッションを重視し、生徒指導・教育相談事例のアセスメント演習を実施している。事例を模擬的にアセスメントし直すことを通して、教師の立場、学校としての動き方を学生が主体的に理解するよう取り組んでいる。		
2 作成した教科書、教材					
児童生徒理解のための教育心理学		2013年 3月20日 ～現在に至る	1章では、教育心理学における発達を捉える視点、発達における遺伝と環境の相互作用の考え方、アタッチメントの重要性と人間のもつ発達の可塑性、社会文化的システムをとおした発達と教育の考え方を述べた。3章では、児童期から思春期・青年期の社会性の発達、特に仲間関係の発達を述べている。さらに、集団の問題としての「いじめ」を取り上げ、実態を理解したうえで、学校現場としての取り組みと課題を述べた。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
神奈川大学の学生の学校ボランティア (小・中・高)		2006年 ～現在に至る	神奈川大学の学生の学校ボランティア (小・中・高) 派遣を行い、経験と学びのふり返りを組織的に行っている。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

発達と臨床の心理学	共著	2012年 4月	(ナカニシヤ出版)	渡辺弥生・榎本淳子編著 長谷川真里・中原美恵・古屋喜美代 小澤真・安藤美華代・桜井美加 ・原田恵理子・玉木健弘	39-53頁
児童生徒理解のための教育心理学	共著	2013年 3月	(ナカニシヤ出版)	古屋喜美代・関口昌秀・荻野佳代子編著	pp1-14, pp33-47頁
論文					
教師としての悩みと成長—若き教師の成長をどのように支えるか—	共著	2011年 3月	神奈川大学心理・教育研究論集 (第30号)	岩根宏、長島和宏、小野啓之、 古屋喜美代	179-187頁
デンマークの保育・教育からの学び—保育・教育システムと森の幼稚園—	単著	2012年 3月	神奈川大学心理・教育研究論集 (第31号)		5-15頁
デンマークの森の幼稚園をたずねて—自然と子どものかかわり	共著	2012年 7月	『現代と保育』83号 (ひとなる書房) (83号)	古屋喜美代、豊泉尚美	78-93頁
コミュニケーションの主体としての子ども	単著	2012年10月	『はげみ』(日本肢体不自由児協会) (No. 346、10・11月号)		16-20頁
児童・生徒指導—集団と個の成長—	単著	2013年11月	神奈川大学 心理・教育研究論集 (第34号)		43-52頁
その他					
「気になる生徒」の育ちと支援を考える		2010年12月	(横浜市立老松中学校)		
実践交流研修を通しての学童保育実践の振り返りと学び—学童保育特別支援児童と子ども集団の育成を支援する—	共著	2011年 3月	日本発達心理学会 第22回大会発表論文集	古屋喜美代、浜谷直人、西本絹子、常田秀子、吉川はる奈	564頁
全国保育団体合同研究会43回・2歳児の保育		2011年 7月	(高崎健康福祉大学)		

教師としての「壁」認識と成長の捉え方ー若手・中堅・ベテラン教師における特徴ー	単著	2011年 7月	日本教育心理学会 第53回大会		437頁
教員免許状更新講習・教育の最新事情・気になる子どもの理解と支援		2011年 8月	(神奈川大学)		
全国保育団体研究集会44回大会・5歳児の保育		2012年 8月	(神戸)		
教員免許状更新講習・教育の最新事情・気になる子どもの理解と支援		2012年 8月	(神奈川大学)		
杉並区学童クラブ特別支援児童担当者会(研修会) 「一人ひとりの良さが生きる学童クラブの生活づくり」		2012年 9月	(東京都杉並区)		
「5歳児の保育」全国保育団体合同研究集会第45回大会		2013年 8月	(神奈川県)		
日本臨床発達心理士会研修委員会企画シンポジウム「保育を通しての家族支援4ー現場における連携と機能を高めるための組織コンサルテーション」『学童保育における生活づくりと間接的な家族支援』		2013年 8月	日本教育心理学会第55回大会		

自主シンポジウム「これからの教員養成・採用・研修のあり方について」『教師がふり返る自らのキャリア形成一壁と乗り越えー』		2013年 8月	日本教育心理学会第55回大会（法政大学）		
杉並区通所支援ボランティア講座「障害の理解と支援」		2013年11月	(東京都杉並区)		
「学童期のこどもの発達と生活—一人ひとりの育ち、仲間の育ち—」 横須賀市放課後児童指導員研修会		2014年 1月	(横須賀市)		
「学童期の子どもの発達と支援—一人ひとりの育ち、仲間の育ち—」 宮城県平成26年度放課後児童クラブ指導員等研修会		2014年10月	(宮城県子ども総合センター)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1983年 4月～現在に至る		日本教育心理学会(国内学会)会員			
1990年 4月～現在に至る		日本発達心理学会(国内学会)会員			
1992年 4月～現在に至る		杉並区学童保育クラブ障害児巡回相談員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 子どもの言語・社会性の発達			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 発達障害支援			
2007年 4月～現在に至る		日本心理臨床学会(国内学会)会員			
2009年 4月～2012年 3月		臨床発達心理士協会 認定委員会委員			
2012年 6月～現在に至る		臨床発達心理士会 研修委員会委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 笠間 千浪	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
「フィールドワーク入門1」		2010年 9月 ～現在に至る	人間科学部1年生対象に対するフィールドワーク入門ゼミナール。横浜市における新しい公共をさぐる活動をしている団体を訪ねてヒアリングをし、報告書にまとめる。学生たちに対象の活動団体やテーマを選択させ、事前のResearchを行う。一日かけてフィールドワークを実施した後、報告書の書き方などを指導している。		
2 作成した教科書、教材					
ミネルヴァ書房『よくわかるジェンダー・スタディーズ』項目執筆		2013年 3月 ～現在に至る	ジェンダー研究の入門書の共同執筆。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
<悪女>と<良女>の身体 表象	共著	2012年 2月	(青弓社)	編著者笠間千浪、山口ヨシ子、 熊谷謙介、小松原由里、前島志 保、村井まや子	
論文					
なし					

その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1989年 4月～現在に至る		日本社会学会(国内学会)会員			
1998年 6月～現在に至る		神奈川大学研究奨励助成			
1999年12月～現在に至る		朝日新聞「99年回顧：論壇」において評者による「私の5点」のうち、論文「ジェンダー秩序のなかの<ノイズ>の可能性」がその中の1つとして選定された。			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 エスニシティ・「人種」・ジェンダー			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 ジェンダー(セクシュアリティ)秩序をめぐる理論的研究			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 ジェンダー化された〈欲望〉の政治学			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 女性のサブカルチャー			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 権力論および排除メカニズム			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 象徴権力とジェンダー			
2006年～現在に至る		個人研究 対抗的文化圏と社会構造との関係			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 寺沢 正晴	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケートの活用	1993年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 社会心理学) 全学部 of 学生を対象とする、共通教養系科目の授業である。前期の授業は、社会心理学の課題と歴史を副題とし、広く社会科学を基礎とした総論的な講義を行い、後期は、現代の社会心理とし、より現実に密着した各論的な講義を行っている。受講生も多く、おおむね良い評価を得られているように思われる。講義の内容は、抽象的な議論になりがちなものなので、できるだけ、身近で具体的な事例を取り上げて、学生が理解・納得できるよう努めている。	
学生による授業評価アンケートの活用	1993年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 社会心理学二部) 主として二部の全学部学生を対象とする授業である。本科目は、多くの学生がすでに履修しており、現在四年次生を残すのみとなってしまったために受講者は少ない。そのため、学生たちの了解の下に、授業は、文献購読・ディスカッション・レポート提出等、ゼミ形式で行っている。二部の学生は、教員と親しく接触する機会が少ないために、ややきつい授業であるかもしれないが、出席の状況も良く、大変喜ばれている。	
学生による授業評価アンケートの活用	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 基礎ゼミナール) 人間科学専門ゼミナールへの橋渡しのゼミナールとして、社会心理学の入門書程度の文献を読み、報告・議論の仕方を身に付けさせ、レポートを作成させている。これも、半数以上の学生が専門ゼミナールでの、引き続いての受講を希望しており、それなりの評価をしてもらっているように考えている。	
学生による授業評価アンケートの活用	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 人間関係論) 人間科学部の選択必修科目であり、三教員によるオムニバス形式の授業である。初年度前期の授業であるために、授業の受け方・学修の仕方・レポートの書き方などもあわせて指導しつつ、人間関係について講義を行っている。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 FYS) 学生の積極的な参加意欲を引き出すために、資料の配布、図書館見学等々、様々な工夫をしている。半数異常の学生が後期の基礎ゼミナールを引き続いて受講することを希望しており、それなりに成果をあげているものと考えている。	

学生による授業評価アンケートの活用	2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 現代社会心理学) 人間科学部の展開科目であり、二年次生以上を対象としている。共通教養系科目の社会心理学的な知識を前提に、現代社会の文化と心理を副題とし、講義を行っている。授業内容は、学生が興味を持てる身近な事柄を再考察しようとするものである。そのテーマに関する学生の再考察を数回作文させ、印象深く感じさせるために、DVDなども使用している。また、最終回には、四千字以上のレポートを提出させ、全員のレポートを印刷・製本し、各人に配布している。
学生による授業評価アンケートの活用	2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 専門ゼミナール) 社会心理学を基礎とした、人間科学部の専門ゼミナールである。二年次生に対しては、教養を広めさせること・共同作業を可能にさせること・将来の方向性を模索させることを中心に指導している。三年次生に対しては、二年次生への指導の継続に加えて、卒業論文製作と就職活動へ向けての指導に力を注いでいる。
2 作成した教科書、教材		
小論文「大学で何を学ぶのか」	2005年 4月 1日 ～現在に至る	(『学問への誘い』神奈川大学2005・6年版) 現在の一般的な大学生の勉学意欲の希薄さの原因を探り、そこから、どのように意識改革をすれば充実した大学生活を送れるかを考察したもの。FYSの授業やオープンキャンパス、高校への出張授業などで同論文を使用した授業を行い、好評を博している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2008年授業評価アンケート結果	1993年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 社会心理学) 受講者数も多く、アンケートでも、それなりの評価を得ている。数百名の受講者がいるために、資料などを配布していないが、その点はアンケート結果にもあらわれている。そのことに対して学生が特に不満を感じているとも思われないが、学生の理解をより深めるために、何らかの工夫が必要であるのかもしれないと考えている。
2008年授業評価アンケート結果	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 人間関係論) この科目に対する評価は、別に悪いものではないが、確固とした学問的な成果が不足しているために、担当者としては、忸怩たるものがある。それなりの学問的な基礎の上に立った教材が必要とされているのではあるまいか。試論的なものではあるが、「人間関係論」の論文を構想してはいる。
2008年授業評価アンケート結果	2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目 現代社会心理学) この授業に関しても、それなりの評価はしてもらっているが、二年目の授業であることもあり、担当者としては、多少手探り状態のところがある。2008年度の授業に関しては、前年度の受講生に感想を聞き、学生が、より興味を持ってそうなテーマと授業形式を採用してみた。09年度の授業では、今回のアンケート結果を考慮して、より進歩した授業を提供しようと考えている。

4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
神奈川大学映画研究会顧問		2000年 4月 1日 ～現在に至る	学生のサークルである同研究会の顧問		
神奈川大学柔道部長		2008年 4月 1日 ～現在に至る	神奈川大学体育会柔道部の部長		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2005年～現在に至る		日本マス・コミュニケーション学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 日本の伝統文化			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 日本人の精神構造			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 現代日本の大衆文化と心理			
2006年 4月～現在に至る		平塚市国民保護協議会委員 協議委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 大西 勝也	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
教職課程における授業の工夫と取り組み			教職課程全般に言えることであるが、教員相互の、授業の方法、形態についての意見交換や検討により、授業について工夫がこらされている。ゼミでないにもかかわらず、学生とのコミュニケーション、学生同士のコミュニケーションを少しでも図るようにしている。授業の中には、グループディスカッション、ロールプレイ、マイクロ・ティーチング、自己紹介、レポート作成などがあり、自己表現、論理的思考の機会をつくるように配慮している。(～至現在)
授業における教員と学生、学生同士のコミュニケーションを活かした取り組み		2006年 4月 ～現在に至る	「教職に関する科目」の「教育原論」、「教育と社会」、「教職論」、「教育実習指導」、そして、人間科学部人間科学科の科目「教育哲学」と「教育人間学」において、(1)受講学生を小グループにわけ、授業テーマについてグループで議論してもらい、その結果をレジュメにまとめたり、プレゼンテーションをしてもらったりして、それについて、他のグループが質疑応答したり、教員がコメントを加える、また、(2)学生個々人の授業レポートを読み、その内容を整理して紹介したり、コメントを加えたり、その内容を学生が他の学生たちの前で発表したりすることで、テーマについての学生の多様な考えを相互に知り、自分の考えを相対化してふりかえる機会を作っている。また、「教職に関する科目」の「道徳教育論」では、受講している学生全員が「道徳」の模擬授業を実践し、学生同士各授業を論評・評価し合い、また、教員が助言するという全員参加の授業を実施している。以上、授業における教員と学生、学生同士のコミュニケーションを活かした取り組みを続けてきている。
神奈川大学の近隣の中学校・高等学校における神奈川大学教職履修学生の「保健体育」授業参観の企画・実施		2008年10月20日 ～2011年10月28日	「保健体育」の教育実習を2009年度に予定している人間科学部の学生(3年次生)を対象とした「保健体育」実技の授業参観を、はじめて神奈川大学近隣の中学校3校・高等学校3校の計6校で実施するための企画・交渉を運営した(2008年3月から10月はじめにかけて)。そして、2008年10月末に実施できた。同様の企画・実施を2011年度まで行った。

神奈川大学 教育・研究交流会における大学教員、学校現場の教員、教育委員会関係者のFDの機会の企画・実施	2015年 2月14日	教育・研究交流会において神奈川大学特別招聘教授の安彦忠彦先生による講演「次期学習指導要領の特質と課題」を企画し、安彦先生に依頼し、実施・運営することにより、それぞれの立場で教職に関わる教員が、今後取り組むべき教育課題について知り、考えるというFDの機会を提供した。			
神奈川大学 教育・研究交流会における学生への学校ボランティア体験の振り返りの場の提供	2015年 2月14日	教育委員会関係者や学校の教員と学校ボランティアを体験している教職の学生が情報・意見交換するラウンドテーブルを企画し、学生が学校ボランティアを振り返り、その体験を語ることにより教育委員会や学校現場の先生方から助言をいただく教育的場を提供した。			
2 作成した教科書、教材					
教育実習の事前指導で用いる教材としての「資格教育課程通信」第30号と第31号の編集	2013年 3月 ～2014年 3月	3年次生と4年次生に対して行われる教育実習の事前指導の授業に用いる教材にもなる、前年度に教育実習を行った学生の教育実習記録の抜粋と教員採用試験に現役合格した学生の後輩へのメッセージを、「資格教育課程通信」の記事に編集した。			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年10月 ～現在に至る	(授業科目：教育哲学)「授業の内容に興味関心を持てた」：4. 6、「担当教員の話し方は明確で学生をひきつけた」：4. 6、「担当教員の授業に取り組む熱意を感じた」：4. 8、「担当教員は授業の中で学生が質問したり意見を述べられるように十分配慮した」：4. 7、といった評価項目において高い評価を得た。			
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年10月 ～現在に至る	(授業科目：教育原論・木・7時限) 学生による授業評価アンケートにおいて、9項目で、4. 5という評価を得た。			
神奈川大学教育実習協力校懇談会における新規取り組み（「保健体育」実技授業参観）への評価	2008年11月19日 ～現在に至る	2008年11月19日に開催された、神奈川大学教育実習協力校懇談会で、前月10月に初めて実施した神奈川大学近隣の中学校3校・高等学校3校での神奈川大学生による「保健体育」実技の授業参観が、高い評価を受けた。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

なし					
論文					
ディースターヴェーク、ヴィヘルン、ヘルバルトの教育思想にみる個性論	単著	2012年 9月	人文研究(神奈川大学人文学会) (177)		59-75頁
「道徳の指導法」についての研究(1) —道徳的価値の実践の諸相—	単著	2013年 3月	神奈川大学 心理・教育研究論集(神奈川大学教職課程研究室) (33)		51-54頁
「道徳の指導法」についての研究(2) —道徳的価値の実践の諸相—	単著	2013年11月	神奈川大学 心理・教育研究論集(神奈川大学教職課程研究室) (34)		35-42頁
学習指導要領と臨時教育審議会答申にみる「個性」に関する教育理念と「個性」概念について	単著	2013年11月	神奈川大学 心理・教育研究論集(神奈川大学教職課程研究室) (34)		65-68頁
ディースターヴェークにおける愛国心教育理念について	単著	2015年 3月	神奈川大学 心理・教育論集(神奈川大学教職課程研究室) (37)		5-13頁
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1981年 7月～現在に至る	教育史学会(国内学会)会員
1981年 8月～現在に至る	日本教育学会(国内学会)会員
1983年 4月～現在に至る	教育哲学会(国内学会)会員
1989年 5月～現在に至る	日本ペスタロッチー・フレーベル学会(国内学会)会員
1994年 4月～現在に至る	神奈川大学 人文学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 人間形成における罰に関する研究
2005年 4月～現在に至る	個人研究 公民教育に関する研究

2007年 3月～2011年 3月	平成18年度～平成22年度 横浜国立大学教育人間科学部 附属教育実践総合センター 外部評価委員会 委員
2007年 4月～現在に至る	機関内共同研究 (神奈川大学教職課程)6,000,000円 教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割
2011年 4月～2015年 3月	神奈川大学 人文学会(国内学会)会長
2011年 4月～現在に至る	神奈川大学人文学会 会長
2011年 8月～現在に至る	教員免許更新講習 講師
2011年10月～現在に至る	個人研究 身体、時間、空間、ミメーシスの視点からみた人間形成
2014年 8月	教員免許状更新講習 (必修) 教員免許状更新講習 (必修) の企画・実施責任者

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 入江 直子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
授業運営へのボランティア活動の導入		1998年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：ボランティア学習論、特別活動論、社会教育演習、ゼミナール) 授業の一環として、学期中は日曜日等を利用して最低1回の、そして夏季休業中等は数回のボランティア活動を体験し、その体験を振り返ることを通して、多様な人びととの人間関係や社会問題を学ぶ機会となり、それぞれの授業の学習目標の達成に効果があった。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2013年度 グッドティーチャー賞		2013年10月25日 ～現在に至る	教員養成における実践力形成のために、教員を志望する学生による「学校ボランティア」の取り組みを推進していることが評価された。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
教職課程における「学校ボランティア」の推進		2004年 4月 1日 ～現在に至る	教員を志望する学生が実践力形成のために現場で学ぶ「アクティブ・ラーニング」として、「学校ボランティア」の取り組みを10年以上継続的に展開している。2010年からは、神奈川区との連携のもとで「JYSP(神大・ユースサポート・プロジェクト)」として、70～80名の学生が学校現場でのボランティア活動や大学における中学生の学習支援に関わり、学生が実践的な学びを経験する取り組みを推進している。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『社会教育・生涯学習 辞典』	共著	2012年11月	(朝倉書店)	社会教育・生涯学習辞典編集委 員会編	

論文					
「オーストラリアにおける Adult Educator の養成と高等教育改革」(査読付)	共著	2010年 6月	『日本社会教育学会紀要』(46)	中村香・入江直子・村田晶子	81-90頁
「学校ボランティア」10年の歩み	単著	2014年 3月	神奈川大学 心理・教育研究論集(35)		99-236頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 成人女性の主体形成のプロセスに関する研究			
1982年 4月～現在に至る		日本社会教育学会(国内学会)会員			
1990年 4月～現在に至る		日本教育学会(国内学会)会員			
2005年 1月～現在に至る		日本ボランティア学習協会(国内学会)会員			
2006年10月～現在に至る		横浜市市民活動支援センター評議委員会 委員長			
2007年 4月～現在に至る		ふじさわ人権協議会 会長			
2011年 9月～現在に至る		日本社会教育学会(国内学会)理事			
2013年 4月～現在に至る		神奈川県情報公開審査会 委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
人間科学部人間科学科	教授	松本 安生	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
ビデオプレゼンテーションを活用した授業の実践	2007年 4月 1日 ～2013年 3月31日	「基礎ゼミナール」の授業では、公共広告をテーマに受講者が自ら企画、調査した内容をデジタルカメラによる撮影やコンピュータ機器による編集などの作業を行い、映像作品の制作を行った。これにより、社会及び公共性に対する学生の興味・関心を引き出しながら、メディアへの理解や共同作業による協調性を高めることができた。	
マルチメディア教材を活用した授業の実践	2007年 4月 1日 ～現在に至る	「環境科学」の授業では、環境問題を多角的な視点から理解するために、講義時間内においてはパワーポイントを用いたデータの説明、ドキュメント番組などのビデオ教材の活用、さらには授業支援システムを活用した参考文献の配布などを行った。これにより、講義への関心や自主的な学習への動機づけを高めることができた。	
産学連携による社会調査実習の実施	2010年 4月 1日 ～現在に至る	学生の社会調査実習として、神奈川新聞社との共同世論調査を行い、その結果については学生自らの考察（コメント）と合わせて神奈川新聞紙面で取り上げていただいたほか、一般公開シンポジウム等を通じ社会への還元を図った。	
産官学連携による授業の実践	2010年 4月 1日 ～現在に至る	「環境社会論」では、横浜市および民間企業の協力のもと、地球温暖化対策をはじめとする環境問題への最先端の取り組みについて、それぞれの担当者からご講義いただき、学生らとの質疑応答を行った。また、地域社会との連携を重視し、一般市民も受講できる公開講座として行った。	
地域メディアとの連携による授業の実践	2011年 4月 1日 ～現在に至る	地元横浜を代表的なマスメディアである神奈川新聞社、共同通信社横浜市局、テレビ神奈川の方々をゲスト講師としてお招きし、実際の報道記事やテレビ番組を題材に実践的に社会におけるメディアの役割と課題について講義を行い、学生の理解度を高めた。	
産学共同による授業の実践	2012年 4月 1日 ～現在に至る	地元横浜を中心とする企業やNPOからお招きしたゲスト講師の講義やワークショップを通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力やスキルを知り、自分の力とのギャップを肌で感じることで、大学での学修に対する動機付けを図った。	

学生・教員間の双方向授業の実践	2014年 4月 1日 ～現在に至る	「基礎ゼミナール」では、グループワークを取り入れ、学生による主体的な相互学習を中心とした授業を行った。この結果、学生の主体性やコミュニケーション能力を醸成することができた。			
2 作成した教科書、教材					
「環境科学」の自主的学習用教材の作成	2007年 4月 ～現在に至る	大学図書館の雑誌記事全文数据库を活用し、毎回の講義内容と関連する参考資料を指定し、学生にWebを利用して周知した。			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
環境省環境調査研修所主催「地球温暖化対策研修」講師	2014年 7月 1日 ～現在に至る	国及び地方自治体等において地球温暖化対策に関する業務を担当する職員を対象に、低炭素社会実現に向けた普及啓発のあり方についての講義及び演習を担当した。			
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
科学的な不確実性が市民の意思決定に及ぼす影響～地球温暖化の緩和策を事例として～(査読付)	単著	2011年 3月	神奈川大学『間科学研究 年報 5		55-64頁
地球温暖化リスクの伝達の実践の試み～メディア関係者との意見交換と市民対象の双方向型シンポジウム	共著	2011年10月	科学技術社会論研究(科学技術社会論学会) (9)	高橋 潔, 杉山 昌広, 江守 正多, 沖 大幹, 長谷川利拡, 住 明正, 福土 謙介, 青柳みどり, 朝倉 暁生, 松本 安生	40-53頁

研究者・メディア間の 温暖化リスクコミュニ ケーション促進に向け た対話型フォーラムの 可能性	共著	2011年10月	科学技術社会論研究(科 学技術社会論学会) (9)	三瓶由紀・江守正多・青柳みど り・松本安生・朝倉暁生・高橋 潔・福土謙介・住明正	54-67頁
科学的な不確実性の認 識が地球温暖化対策に 対する大学生の意思決 定に及ぼす影響(査読 付)	単著	2011年10月	科学技術社会論研究(科 学技術社会論学会) (9)		84-97頁
その他					
事業評価アンケートの 結果について	単著	2011年 3月	低炭素地域づくり全国フ ォーラム報告書(全国地 球温暖化防止活動推進セ ンター)		94-99頁
日本とマレーシアの若 年層の自動車保有に対 する意識に関する研究	共著	2012年 9月	環境科学会2012年会, 横 浜国立大学, 神奈川	松本安生・上村芳三	
地域で取り組む地球温 暖化対策	単独	2013年 3月	さがみはら地球温暖化防 止フォーラム(神奈川県 相模原市)		
市民社会における合意 形成	単著	2013年 8月	TASC MONTHLY (452)		6-11頁
地域で進める温暖化対 策(連載)	単著	2014年 4月	さがみはら商工会議所会 報(さがみはら商工会議 所) (477~488)		
低炭素社会実現に向け た普及啓発のあり方につ いて	単独	2014年 7月	平成26年度地球温暖化対 策研修(埼玉県所沢市)		
水・エネルギー・食料 連環に向けた課題と展 望	単独	2014年 9月	環境科学会2014年会(つ くば国際会議場)		

環境教育は効果があるのか？行動変革を促す方法	単独	2015年 2月	日本LCA学会環境教育研究会第23回研究会(工学院大学新宿キャンパス)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1991年～現在に至る		個人研究 環境問題における住民の意識と行動			
1991年 6月～現在に至る		環境科学会(国内学会)会員			
1993年 5月～現在に至る		日本計画行政学会(国内学会)会員			
1995年 6月～現在に至る		(社)環境情報科学センター(国内学会)会員			
2003年 7月～2010年 7月		綾瀬市環境対策委員会 委員			
2005年 4月～現在に至る		日本計画行政学会(国内学会)非常任理事			
2005年 4月～2013年 3月		環境科学会(国内学会)編集委員			
2005年12月～2013年11月		千代田区みらいくる会議 委員長			
2006年 1月～2013年11月		千代田区一般廃棄物減量等推進審議会 委員			
2006年 6月～現在に至る		神奈川県大規模小売店舗立地審議会 委員			
2006年12月～2010年12月		文京区リサイクル清掃審議会 会長			
2007年 5月～2011年 3月		その他の補助金・助成金(環境省)106,105,000円 「地球環境研究総合推進費(S-5)」 「知・情・意」に着目した実感を伴う環境コミュニケーションのための実験的研究(研究分担者)			
2007年 6月～現在に至る		日本リスク研究学会(国内学会)会員			
2008年10月～現在に至る		科学技術社会論学会(国内学会)会員			
2009年 6月～2011年 3月		沼津市環境市民会議・策定委員会 副委員長			
2010年 4月～現在に至る		神奈川新聞・神奈川大学共同世論調査			
2010年 8月～2011年 3月		低炭素地域づくり全国フォーラム実行委員会 事業評価委員			
2010年 8月～現在に至る		相模原市環境審議会 委員			
2010年 9月～2011年 3月		佐賀県地球温暖化防止活動推進員派遣評価事業検討会 アドバイザー			
2011年 9月～2012年 3月		低炭素杯2012企画・審査委員会 委員			
2011年 9月～2012年 3月		地域活動支援・連携促進事業(CO2排出抑制対策事業) 効果測定手法検討委員会 委員長			
2011年10月～現在に至る		横須賀市環境審議会 委員			
2013年 3月～2015年 3月		環境科学会(国内学会)理事(総務担当)			
2013年 8月～現在に至る		産学連携推進プロジェクト委員会 委員			
2014年 4月～現在に至る		その他の補助金・助成金(旭硝子財団)3,500,000円 「環境研究 近藤次郎グラント」AR(拡張現実)技術を用いた気象災害リストと気候変動リスクの重畳の情報提供手法の構築に関する研究(研究代表者)			
2014年 4月～現在に至る		地域での地球温暖化防止活動事業推進委員会(事業評価・支援部会) 委員(部会長)			
2014年 4月～現在に至る		横浜市放置自動車及び沈船等の廃物判定委員会 委員			
2014年 4月 1日～現在に至る		二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(地域活動支援・連携促進事業) 公募提案書審査委員会 委員			
2014年10月～2015年 3月		地域での連携事業体によるCO2削減活動支援事業推進委員会 委員長			

2015年 3月～現在に至る

環境科学会(国内学会)理事 (会計担当)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
人間科学部人間科学科	教授	平井 誠	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業評価に関するアンケート	2003年 4月 ～現在に至る	すべての担当科目（人文地理Ⅰ・Ⅱ, 基礎ゼミナール）について、講義最終日に講義の進め方や説明の仕方、講義内容に関するアンケートを行った。その結果は次年度の講義に反映させている。（平成15年4月より継続）	
ゼミ活動における巡検（野外実習）の実施	2006年 4月 1日 ～現在に至る	人間科学専門ゼミナールにおいて巡検を実施しており、学生による巡検資料集も作成している。 これまでに、つくば、宇都宮、神戸、沖縄、長崎、松山、山口、佐世保などを訪れている。	
インターネットを用いた課題の提示	2008年 4月 1日 ～現在に至る	電子メールおよび神奈川大学のWeb Stationを活用し、講義内容や課題に関する情報提供を行っている。	
「横浜学4」に関する学外実習	2008年12月 ～現在に至る	横浜という地域をよりよく理解するために学外実習を実施した	
社会調査法（含む実習）B1・2における学外実習の指導および報告書の作成	2009年 4月 1日 ～現在に至る	社会調査士の資格取得に必要な実習科目（本学では「社会調査法（含む実習）」）において学外での調査実習を指導し、その成果を報告書としてまとめている。	
インターネットGISを活用した授業の展開	2014年 9月25日 ～現在に至る	「横浜学Ⅳ」や「専門ゼミナール」において、近年発展著しいインターネットGISの紹介および実践を行っている。	
2 作成した教科書、教材			
「人文地理学1・2」の教材作成	2003年 4月 1日 ～2012年 3月31日	「人文地理学1・2」ではオリジナルの教材を作成している。学生の反応や意見などを取り入れ、毎年改善を続けている。	
「地理学（含地誌）」「地誌学」の教材作成	2004年 4月 1日 ～現在に至る	「地理学（含地誌）」「地誌学」ではオリジナルの教材を作成している。学生の反応や意見などを取り入れ、毎年改善を続けている。	
「人口地理学」の教材作成	2007年 4月 1日 ～現在に至る	「人口地理学」では最新の研究動向を取り込んだオリジナルの教材を作成し配布している。	
「横浜学4」の講義資料作成	2008年 9月 ～現在に至る		

「高齢社会論」の教材作成		2008年 9月 1日 ～2013年 3月31日			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果		2008年 7月 ～現在に至る	前期に担当した講義コマ5コマのアンケート結果は、「教員の熱意」「わかりやすさ」などで総じて高い評価を得た。		
学生による授業評価アンケート		2008年12月 ～現在に至る	2009年度後期分		
学生による授業評価		2010年 7月 ～現在に至る			
学生による授業評価		2010年12月 ～現在に至る			
学生による授業評価		2012年 7月 ～現在に至る			
学生による授業評価		2012年12月 ～現在に至る			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
学部内FD委員としての活動		2014年 4月 1日 ～現在に至る	社会コース選出のFD委員として学部のFD活動に関わった。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『地域と人口からみる日本の姿』(分担執筆)	共著	2011年 3月	(古今書院)	石川義孝・井上 孝・田原裕子 編	126頁
『世界地誌シリーズ4 アメリカ』(分担執筆)	共著	2011年 4月	(朝倉書店)	矢ヶ崎典隆編	
『世界地名大辞典 北 アメリカ1・2』(分担執筆)	共著	2013年11月	(朝倉書店)		
『首都圏の高齢化』(分担執筆)	共著	2014年 3月	(原書房)		53-71頁

『日本経済地理読本 第9版』(分担執筆)	共著	2014年 4月	(東洋経済新報社)		15-24頁
<i>Urban Geography of Post-Growth Society</i>	共著	2015年 3月	(Tohoku University Press, Sendai)	Masateru HINO and Jun TSUTSUMI eds.	107-122頁
論文					
大都市圏外外園部にお ける人口減少下の地域 再編ー埼玉県北部地域 を事例にー	共著	2012年 3月	『地域環境研究』(立正 大学) 14	伊藤徹哉・岩間信之・平井 誠	7-22頁
学界展望「人口」(査 読付)	単著	2012年 6月	『人文地理』(人文地理 学会) 64(3)		231-233頁
新刊短評 阿部和俊編 『日本の都市地理学50 年』	単著	2012年 6月	『人口学研究』(日本人 口学会) (47)		73-74頁
2010年国勢調査からみ る日本の人口高齢化	単著	2013年 1月	『地理・地図資料』(帝 国書院) (202)		3-6頁
(書評) 高橋伸夫・菊 地俊夫・根田克彦・山 下宗利編著:『都市空 間の見方・考え方』. (査読付)	単著	2013年 6月	『地理空間』 6(1)		70-73頁
その他					
青山大学院経済学研究 科公共・地域マネジメ ント専攻 ワークショ ップ「日本における高 齢人口移動の現状」		2011年12月	(青山学院大学)		
首都圏の高齢化: 高齢 者移動	単著	2012年 9月			

Urban Policies concerning Socio-Economic Reconfiguration in an Aging Society- A Case of Tokyo Metropolitan Area	共著	2013年 8月	IGU2013 Kyoto	Tetsuya ITO, Nobuyuki IWAMA and <u>Makoto HIRAI</u>	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1993年12月～現在に至る		地理情報システム学会(国内学会)会員			
1993年12月～現在に至る		日本地理学会(国内学会)会員			
1994年10月～現在に至る		人文地理学会(国内学会)会員			
1995年10月～現在に至る		地域地理科学会(国内学会)会員			
1995年12月～現在に至る		日本人口学会(国内学会)会員			
2000年 4月～現在に至る		東北地理学会(国内学会)会員			
2000年 4月～現在に至る		経済地理学会(国内学会)会員			
2002年10月～現在に至る		(社)東京地学協会 会員			
2003年 4月～現在に至る		個人研究 日本の高齢人口移動移動モデル			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 高齢人口の地域分布とその変動要因			
2005年10月～現在に至る		アメリカ地理学会(国際学会)会員			
2008年 4月～現在に至る		地理空間学会(国内学会)会員			
2008年 4月～現在に至る		日本地理学会(国内学会)財務専門委員会委員			
2008年 6月～現在に至る		地域地理科学会(国内学会)編集委員会委員			
2012年 4月～現在に至る		個人研究 大都市居住高齢者の非大都市圏への移動に関する研究			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 新田 泰生	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
大学院「産業臨床心理学特論」の分析		2010年 9月 ～2011年 3月	大学院「産業臨床心理学特論」のレポート分析から、この授業の意義を考察した。		
大学院「臨床心理面接特論2」の分析		2011年 9月 ～2012年 3月	大学院「臨床心理面接特論2」において、マインドフルネスへの受講院生の初期的理解を探るために、レポートを分析ワークシート方式で、質的に分析した。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果「臨床心理学」		2008年 9月 1日 ～現在に至る	授業科目「臨床心理学」：必要な事前事後の課題を適切に指示しましたかの質問は、89.2%が「強くそう思う」と「そう思う」の評価を得た。教員の熱意を感じましたかの質問は、81.1%が「強くそう思う」と「そう思う」の評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「研究方法をめぐって」日本人間性心理学会編『人間性心理学ハンドブック』	共著	2012年 9月	(創元社)	日本人間性心理学会編	144-151頁

論文					
産業臨床心理学特論の意義に関する一考察	単著	2011年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究(2)		3-15頁
グループ・フォーカシング初体験者にとっての照合プロセス	共著	2012年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究(3)	柿沼朋恵、田内ますみ、馬場洋介、新田泰生	87-109頁
マインドフルネスに関する一考察	単著	2012年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究(3)		19-31頁
再就職支援会社で支援を受けている中高年男性失業者の失業体験について	共著	2012年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究(3)	馬場洋介、柿沼朋恵、田内ますみ、新田泰生	63-85頁
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1980年 4月～現在に至る	個人研究 1、心理療法（フォーカシング、来談者中心療法、集団心理療法、コミュニティ・アプローチ等）に関する研究
1987年 4月～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)会員
1987年 4月～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)第6・7回大会プログラム委員会委員長
1989年 4月～現在に至る	個人研究 2、産業心理臨床（産業メンタルヘルス、産業カウンセリング、キャリア・カウンセリング）等に関する研究
1989年 4月～現在に至る	全国学生相談研修会第27回大会運営委員会 委員
1991年 4月～現在に至る	日本臨床心理士会(国内学会)会員
1992年 4月～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)第11回大会準備委員会アドバイザー
1994年 4月～現在に至る	個人研究 3、質的研究法（M-G T A、ナラティブ・アプローチ、K J法、事例研究法等）に関する研究
2002年 9月～現在に至る	日本人間性心理学会(国内学会)常任理事
2003年 4月～現在に至る	日本産業カウンセリング学会(国内学会)会員
2003年 4月～現在に至る	日本産業カウンセリング学会(国内学会)編集委員会委員
2003年 4月～現在に至る	日本産業カウンセリング学会(国内学会)理事
2006年 4月～現在に至る	日本臨床心理士会(国内学会)理事
2006年 4月～現在に至る	日本臨床心理士会(国内学会)産業領域委員会委員長

2007年 4月～現在に至る

日本人間性心理学会(国内学会)学会賞委員会委員長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 瀬戸 正弘	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
テキストの作成と活用		2003年10月 1日 ～現在に至る	(授業科目：人間科学基礎ゼミナール) 授業内容の理解促進と定着を図るため、テキスト(からだところの健康科学、木村達志・亀井文・瀬戸正弘著、溪水社)を作成し、積極的に活用した。		
学生による2008年前期授業評価アンケート結果の活用		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：First Year Seminar) 2008年前期授業評価アンケートの結果(講義内容、講義方法など)を、その後の授業に反映させている。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2008年前期授業評価アンケート結果		2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：First Year Seminar) ねらい・達成目標の提示(担当教員は、この授業のねらいや達成目標を常に明確に示したと思いますか)、シラバスに基づいていた(この授業の内容や進め方は、シラバス(授業計画)に基づくものでしたか)、熱意を感じた(この授業の担当教員に、授業に取り組む熱意を感じましたか)、質問・意見に配慮をした(担当教員は、授業の中で、学生が質問したり意見を述べられるように十分な配慮をしましたか)、課題を適切に指示した(担当教員は、この授業に必要な事前・事後の課題を適切に指示しましたか)に関しては、80%以上から「強くそう思う」及び「そう思う」の評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

著書					
60のケースから学ぶ認知行動療法	共著	2012年12月	(北大路書房)		
論文					
禁煙継続者と喫煙再開者を区別する心理社会的要因の検討(査読付)	共著	2011年 1月	心身医学 51(1)		61-71頁
情緒障害児短期治療施設における職員に関する研究	共著	2011年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究 (2)		87-98頁
現代の大学生におけるストレス反応とパーソナリティとの関連性	共著	2011年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究 (2)		133-142頁
現代青年の孤独感対処方略に関する研究	共著	2011年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究 (2)		99-105頁
現在および過去の情緒的サポートと居場所感が大学生のレジリエンスに与える影響	共著	2012年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究 (3)		111-125頁
内的作業モデルの規定要因と変容可能性についての研究 -幼少期の父母に対する愛着がその後の対人関係に及ぼす影響-	共著	2014年 3月	神奈川大学心理相談センター紀要 心理相談研究 (5)		69-92頁
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1991年 4月～現在に至る		日本行動療法学会(国内学会)会員			
1993年 4月～現在に至る		日本健康心理学会(国内学会)会員			
1995年 4月～現在に至る		日本行動医学会(国内学会)会員			

1996年 4月～現在に至る	日本カウンセリング学会(国内学会)会員
1996年10月～現在に至る	日本集団精神療法学会(国内学会)会員
2001年 4月～現在に至る	日本母性衛生学会(国内学会)会員
2002年 9月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)会員
2004年11月～現在に至る	中国四国心理学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	個人研究 1. ストレスマネジメントに関する研究
2008年 4月～現在に至る	個人研究 2. 認知行動療法に関する研究
2008年 4月～現在に至る	個人研究 3. 心理尺度(テスト)の開発に関する研究
2008年 4月～現在に至る	個人研究 4. 子どもの問題行動に関する研究
2008年 4月～現在に至る	個人研究 5. 喫煙行動の形成、維持、変容に関する研究
2008年 4月～現在に至る	個人研究 6. 障害や喪失体験の受容過程に関する研究

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
人間科学部人間科学科	教授	杉山 崇	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
授業改善のためのアンケートの活用	2004年 4月 ～現在に至る	全体の満足度は全科目平均で4以上だったが、アンケートにおいて3以下だった項目について改善案を立て、次年度の授業で修正を図った。	
現場体験型の双方向授業の実施	2004年 4月 ～現在に至る	児童相談所、精神障害者宿泊施設、刑務所、精神保健福祉センターなど心理職の現場への見学実習授業。	
双方向型現場実習授業の指導	2005年 4月 ～現在に至る	心理学的援助技術の習得や支援におけるアセスメントおよび治療方針の検討などを大学院生が考察する「考える授業」を実践した。	
心理臨床の実践指導	2005年 4月 ～現在に至る	山梨英和大学心理臨床センター、神奈川大学心理相談センターにおいて大学院生、および修了生（臨床心理士）のスーパーヴァイズを個別および集団で実施した。	
ロールプレイ型授業の実践	2006年 4月 ～現在に至る	大学院生が現場で利用者に関わった体験をロールプレイで再現し、自己理解、利用者理解を深める授業を実践した。	
授業改善アンケートとリアクションペーパーの活用	2006年 4月 ～現在に至る	全体の満足度は全科目平均で4以上だったが、アンケートにおいて3以下だった項目について改善案を立て、次年度の授業で修正を図った。さらにゼミを除く20名以下のクラスではリアクションペーパーを毎回実施し、次回授業では学生の声を取り入れて授業の都度更新を図った。	
Webを活用した授業の実施	2008年 4月 ～現在に至る	授業の資料と知識の定着のための課題をweb上に公開し、授業の一環として授業外の課題を実施した。	
自己探索型授業の展開	2008年 9月 ～現在に至る	ゼミナールにおいて、気質を測定する心理テストを実施し、結果を基にした自己理解を深める自己探索型授業を展開した。	
マルチメディア授業の展開	2009年 4月 ～現在に至る	従来の対面型授業に加えてパワーポイント、映像資料、Webと言った複数のチャンネルを活用したマルチメディアによる双方向型授業を行った。	
2 作成した教科書、教材			
心理学研究法探索シートの作成	2004年 4月 ～現在に至る	テーマ、問題意識、明らかにしたいこと、欲しいデータの種類、を記入・選択することで、適切な研究方法とデータの心理統計法の方針が導けるワークシートを作成し、学生の研究指導で活用している。	

文献読解ワークシートの作成	2004年 4月 ～現在に至る	書籍や論文を読みながら、当該シートの項目を埋めていけば当該文献の筆者のロジック、エビデンス、結論、論理性の評価を導き出せるシートを作成し学生指導に活用している。
現代社会の諸問題を解説するテキスト執筆『福祉と人間の考え方』（ナカニシヤ出版）	2007年 ～現在に至る	障害者福祉、従業員支援プログラム（EAP）など広い意味での福祉を解説する書籍を共著で執筆し、教材として使用。
テキスト「実習の手引」大学院、執筆	2009年 4月 ～現在に至る	
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
山梨英和大学授業改善アンケート	2005年 3月 ～現在に至る	講義科目、心理療法論：総合満足度は5段階評価で4以上が93%。個別にはシラバス、授業の組み立て、熱意が高評価。
法政大学授業評価アンケート	2005年 3月 ～現在に至る	講義科目（200人規模）、臨床心理学、総合満足度5段階評価で4以上が90%。
山梨英和大学大学院授業改善アンケート	2006年 3月 ～現在に至る	講義科目（20人規模）、心理学研究法特論、総合満足度5段階評価で4.8。
山梨英和大学大学院授業改善アンケート	2007年 3月 ～現在に至る	講義科目（20人規模）、心理療法特論Ⅱ、総合満足度5段階評価で4.7。
法政大学大学院授業評価アンケート	2008年 7月 ～現在に至る	心理アセスメント演習、総合満足度5段階評価で5.0。
4 実務の経験の有する者についての特記事項		
山梨県適応指導教室（石和こすもす教室）研修会（事例研究会）講師	2004年11月 ～現在に至る	山梨県教育委員会の運営する不登校傾向の生徒児童を対象にした適応指導教室の指導員（教員）のための事例研究会。対応が困難な事例をスーパーヴァイズした。
山梨県就業支援センター指導員研修会講師	2005年 5月 ～現在に至る	職業訓練におけるカウンセリングや対人関係のコンサルテーションについて教育講演を行う。職業訓練短期大学校など就業支援センターが管轄する教育機関の教員約百人が対象。
山梨英和大学エクステンションセンター公開講座	2005年 6月 ～現在に至る	「ストレス社会とうつ病の予防と軽減」（2005年）
山梨県立ふじざくら養護学校教員研修講師	2005年 7月 ～現在に至る	養護学校の教員を対象に精神障害を有する生徒・保護者への対応について研修会の講師を勤め、困難事例のスーパーヴァイズを行った。
山梨県適応指導教室（石和こすもす教室）研修会（事例研究会）講師	2005年 7月 ～現在に至る	山梨県教育委員会の運営する不登校傾向の生徒児童を対象にした適応指導教室の指導員（教員）のための事例研究会。対応が困難な事例をスーパーヴァイズした。
山梨県適応指導教室（石和こすもす教室）研修会（事例研究会）講師	2006年 3月 ～現在に至る	山梨県教育委員会の運営する不登校傾向の生徒児童を対象にした適応指導教室の指導員（教員）のための事例研究会。対応が困難な事例をスーパーヴァイズした。
山梨県立ふじざくら養護学校教員研修講師	2006年 4月 ～現在に至る	養護学校の教員を対象に精神障害を有する生徒・保護者への対応について研修会の講師を勤め、困難事例のスーパーヴァイズを行った。

山梨県立中央高等学校父兄対象講演会講師	2006年 6月 ～現在に至る	スクールカウンセラーを務める高等学校の父兄対象の事業で講師を務める。演題は「現代社会とカウンセリング ～中央高校の状況と関連させて～」で高校生のキャリア開発に向けて現代社会の労働市場の状況や、高校生のためのコンサルテーションについて講演する。			
山梨英和大学エクステンションセンター公開講座	2006年 6月 ～現在に至る	「祭りとメンタル・ヘルス：ニッポン人のうつ病予防」 (2006年)			
山梨県立ふじざくら養護学校教員研修講師	2006年11月 ～現在に至る	養護学校の教員を対象に精神障害を有する生徒・保護者への対応について研修会の講師を勤め、困難事例のスーパーヴァイズを行った。			
山梨英和大学エクステンションセンター公開講座	2007年 6月 ～現在に至る	「格差社会の精神病理：暴走する自己愛の理解と対策」 (2007年)			
セクシャルハラスメント被害者対応研修会の講師 (財団法人 21世紀職業財団)	2007年 6月 6日 ～現在に至る	企業や組織内におけるセクシャルハラスメント相談担当者を対象にした。			
山梨県立ふじざくら養護学校教員研修講師	2007年 7月 ～現在に至る	養護学校の教員を対象に精神障害を有する生徒・保護者への対応について研修会の講師を勤め、困難事例のスーパーヴァイズを行った。			
セクシャルハラスメント被害者対応研修会の講師 (甲府労働局)	2007年 7月 9日 ～現在に至る	企業や組織内におけるセクシャルハラスメント相談担当者を対象にした			
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『心理学要論』 「6章：記憶」 「8章：動機づけ」 「12章：個人差」 「13章：心への支援」	共著	2010年 4月	(倍風館)	福田由紀編杉山崇、他分担執筆	
『臨床に活かす基礎心理学』	共著	2010年 4月	(東京大学出版会)	坂本真士・杉山崇・伊藤絵美編著	
『事例でわかる基礎心理学のうまい活かし方』	共著	2011年 9月	(金剛出版)	伊藤絵美・杉山崇・坂本真士	
カウンセリングの援助と実際	共著	2012年 5月	(北樹出版)	山蔦圭祐・杉山崇	

「15章ふと浮かぶ記憶・思考とのつきあい方」『ふと浮かぶ記憶・思考の心理学』	共著	2014年 3月	(北大路出版)	関口貴弘・森田泰介・雨宮友里	
論文					
中学生の被受容感を育てる心理教育プログラムの作成と検討	共著	2010年	人間科学研究年報4,	伊藤美佳	17-28, 頁
心理臨床の社会的役割と心理学との関係性について—精神分析・精神医学の受容と基礎医学に相当する基礎臨床心理学の構築に向けて	単著	2010年	人文研究170		23-42頁
大学生における来談者中心的認知行動療法に基づいたグループワーク・プログラムの作成と抑うつ軽減効果の検討(査読付)	共著	2011年 3月	学生相談研究31(3)	伊藤美佳	218-228頁
意識と無意識はどこまで明らかになったのか?—意識のワーキング・メモリ理論とA. Damasio説からの心理療法統合への提案—(査読付)	単著	2014年 3月	人間科学研究年報第8巻		5-16頁

治療関係の認知神経科学と心理学的現象学に基づく再検討—意識のワーキングメモリ理論と実行系における前部帯状回と前頭前野内側皮質の機能に注目した理論的考察と質問紙調査（査読付）	単著	2014年 3月	心理相談研究 5		9-22頁
その他					
メンタルヘルス対策担当者のメンタルヘルスリテラシーを高めるには（特集 メンタルヘルス対策の新たなキーワード）	単著	2014年 3月	心とからだのオアシス 7(4)		8-12, 頁

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1995年 4月～現在に至る	日本健康心理学会(国内学会) 会員
1996年 4月～現在に至る	日本心理臨床学会(国内学会) 会員
1997年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会) 会員
2002年 4月～現在に至る	日本認知療法学会(国内学会) 会員
2003年 4月～現在に至る	日本認知心理学会(国内学会) 会員
2004年 4月～現在に至る	日本うつ病学会(国内学会) 会員
2004年 4月～現在に至る	洗足ストレスコーピング・サポートオフィス 外部研究員
2005年 7月～現在に至る	NPO法人生涯学習 キャリア・コンサルタント検定試験検定委員会・検定委員・問題作成委員会委員
2007年 5月～現在に至る	日本学生相談学会(国内学会) 会員
2007年11月～現在に至る	日本認知療法学会 幹事
2008年 1月～2015年 3月	2級キャリアコンサルティング技能検定試験 技能検定官
2008年 4月～2011年 3月	その他（科学研究費補助金による国内共同研究） 2,400,000円 来談者中心的認知行動療法に基づいた子どもの心理教育プログラム開発
2008年 4月～現在に至る	日本認知療法学会(国内学会) 役員
2008年 4月～2012年 3月	科学研究費補助金 2,210,000円 「若手(A)」慢性抑うつのか来談者中心的認知行動療法の基礎研究（研究代表者）
2008年 4月～2012年 3月	競争的資金等の外部資金による研究（神奈川大学）慢性抑うつのか来談者中心的認知行動療法
2011年 4月～現在に至る	個人研究 学校臨床・教育相談・学生相談、医療心理学、職場のメンタル・ヘルス、キャリア・コンサルティング

2011年 4月～現在に至る	個人研究 統合的心理療法・心理学と心理療法の統合
2012年 4月～2015年 3月	1級キャリア・コンサルティング技能検定 技能検定官
2012年 4月～2015年 3月	個人研究 過度に概括化された記憶とうつ病
2012年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 4,000,000円 「挑戦的萌芽研究」慢性抑うつと過度に概括化された記憶（研究代表者）
2012年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究（神奈川大学）抑うつと記憶過程、対人関係
2012年 9月～2013年 8月	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員・国際事業委員会書面審査員
2013年 4月～現在に至る	日本心理学会(国内学会)代議員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 大竹 弘和	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
なし			
2 作成した教科書、教材			
教科書及び出版物の活用		2009年 3月 5日 ～現在に至る	1. 2008年度後期授業「生涯スポーツ論」の授業にて、担当教員が執筆（共著）の「生涯スポーツ実践論改訂2版」をテキストとして活用。 2. 2008年度大竹ゼミナールにて、担当教員が執筆の「指定管理者制度ハンドブック」及び「指定管理者のモニタリング評価導入のすべて」を参考図書として活用し、公共スポーツ施設の新たな経営手法を学生とともに研究した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
授業評価アンケートの活用及びゼミ合宿・ゼミ誌の発行		2009年 3月 5日 ～現在に至る	授業評価アンケートの結果でほとんどの学生が満足の回答であった。配布資料・投影用パワーポイントの作成、ビデオ教材など多様な手法を活用した結果であると考え。 ゼミナールでは、夏季合宿を1泊2日で箱根で行った。ゼミ生全員に発表の機会を与えプレゼン能力の育成を図るとともに、代表者によるシンポジウム（パネルディスカッション）では活発な意見が飛び交った。体育館でのスポーツ交流会や夜の懇親会等でゼミ生との親睦を深めることができた。 またゼミナールの後半では、「ゼミ誌」発行に向けてテーマの設定⇒研究方法の検討⇒調査・検討⇒考察・結論⇒まとめの流れを指導しながらグループごとに小論文を作成した。約2か月間かかって仕上げた（各班原稿用紙50～70枚）ものを「ゼミ誌」として編集し、1月30日に全員の発表会を開催した。学生からは喜びと感動の声が聞こえてきた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
なし			

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
スポーツファシリティ マネジメント	共著	2011年 7月	(大修館書店)		
スポーツ産業論 改定 第5版	共著	2012年 4月	(杏林書院)		
論文					
総合型地域スポーツ クラブの育成率について の考察 ～文部科学省有識者 会議の提言を踏まえて ～(査読付)	共著	2011年 3月	神奈川大学「人間科学研 究年報」第4巻 2010年	茅野英一、大竹弘和、佐々木綾 香、泉圭祐	
Does the specific player`s participation influence attendance increase? -The case of attendance increase of Japan basketball league-	共著	2011年 7月	アジアマネジメント学会 誌	泉圭祐、大竹弘和、茅野英一	
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1984年～現在に至る		文部省社会教育研修所派遣(3ヶ月)			
1990年～現在に至る		厚生省公衆衛生院(健康科学・2ヶ月) 研修生として派遣			
1990年 4月～現在に至る		みんなのスポーツ全国研究会 理事			
1995年 4月～現在に至る		(財)日本健康スポーツ連盟(スポーツ政策担当) 主任研究員			
1998年 4月～現在に至る		(財)笹川スポーツ財団「スポーツ白書編集サロンメンバー」(アドバイザー)			

1998年10月～現在に至る	日本スポーツ産業学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本体育スポーツ学会(国内学会)運営副委員長
2001年 4月～現在に至る	(財)日本スポーツクラブ協会 評議員
2002年～現在に至る	東京都民間健康増進施設連絡会(主催:都県境局) 委員
2003年～現在に至る	日本スポーツ政策学会(国内学会)運営副委員長
2003年～現在に至る	(財)日本スポーツクラブ協会(クラブマネージャー制度担当) 専門委員
2005年 4月～現在に至る	日本生涯スポーツ学会(国内学会)会員
2006年12月～現在に至る	日本子供NPOセンター 理事
2006年12月～現在に至る	NPO法人地域創造ネットワークジャパン 理事
2008年 4月～現在に至る	日本スポーツマネジメント学会(国内学会)会員
2009年 4月～現在に至る	個人研究 公共施設経営における評価と顧客満足度調査・分析

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 准教授	氏名 石井 哲次	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：運動処方実験実習) 平成20年度前期授業評価アンケートの結果を受け、テキストの活用や講義内容の資料配布などによって、理解しやすい講義を進めていくように授業内容の改善を行った。また、講義の内容を様々な実験を行うことで、学生が身近に感じられるような工夫を行うことに勤める。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：スポーツ競技3) 平成20年度前期授業評価アンケートの結果を受け、学生の要望に対応できるようにするために、講義内容や方法を明確に示し講義の進め方を工夫をした。また、学生が自ら測定や研究を行えるように資料配布や簡単な測定を実施し、学生がスポーツを科学することができるように改善を行った。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：スポーツ競技5) 平成20年度前期授業評価アンケートの結果を受け、学生の要望に対応できるようにするために、講義内容や方法を明確に示し講義の進め方を工夫をした。また、野球というスポーツ種目を科学するために簡単な測定を行い、その結果がトレーニングや選手育成の資料となるように工夫し、実践できるように改善した。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：FYS) 平成20年度前期授業評価アンケートの結果を受け、講義内容や進め方を明確に示し、一つの課題を学生各自がまとめ、発表できるように講義や資料配布などを行えるように授業を改善した。また、パワーポイントや映像などを活用してわかりやすい授業形態が取れるように工夫した。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：スポーツ競技1) 平成20年度前期授業評価アンケートの結果を受け、学生に講義内容や方法を明確に示し、授業形態の特性を生かした講義の進め方を実践した。また学生の興味ある内容について指導を行えるように工夫し、スポーツが身近に感じられるような授業形態で行えるように改善を行った。	
保健体育教員養成のための資格付与	2009年 2月 ～現在に至る	保健体育教員養成のための野外実習において、実技指導とスキー検定資格認定を行い、多くの学生が資格を取得した。	

ゼミ生に対する論文・卒業研究指導	2009年 3月 1日 ～現在に至る	2年生と3年生にはゼミ論文、4年生には卒業研究論文指導を行い、成果をゼミ誌や論文集にまとめた。
保健体育教員養成のための指導	2009年 4月 ～現在に至る	保健体育教員を目指す学生に対して、指導案の作成や模擬授業の指導、実技練習会を行った。担当した学生の中で、教員に採用された。
大学院進学を目指す学生への指導	2009年 4月 ～現在に至る	ゼミ生の中でスポーツに関係する研究を継続し大学院を目指す学生に対して研究活動の指導を行い、大学院に進学した。
ゼミ生の研究活動の指導	2009年 4月 1日 ～現在に至る	ゼミ生の研究活動として、調査研究やアンケート調査の指導を行っている。調査の成果をまとめ論文集にした。
ゼミ生の学会大会での発表	2010年10月17日 ～現在に至る	ゼミ生が行った調査や研究を学会発表に向けて準備、発表を行った。
2 作成した教科書、教材		
作成した教科書、教材	2004年 2月 1日 ～現在に至る	(授業科目：運動処方実験実習) からだの科学と健康づくり
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：運動処方実験実習) 授業内容に関しては全般的に強く思う・そう思うが80%を超えた。履修動機は、約68%と高かった。授業への意欲、ねらいや達成目標、創意工夫、知識や技能の獲得はどちらともいえないが約22%であった。授業中の質問や意見については、どちらともいえないが約33%と多かった。教員の熱意や授業の総合的な満足度は、強く思うやそう思うが87%と高かった
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：スポーツ競技1) 授業の履修では、興味や関心があるものが50%であった。授業への意欲は強く思うやそう思うが50%であった。授業への意欲、シラバスの内容、課題の指示はどちらともいえないが25%であった。授業のわかりやすさはや教科書や資料配布の活用はどちらともいえないが50%であった。知識や技能の獲得は、どちらともいえないが75%と高かった。教員の熱意や総合的な満足は強く思うやそう思うが100%であった。
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：スポーツ競技3) 授業の履修では、単位修得が容易そうや授業への意欲が約29%であった。授業内容に関する項目はどちらともいえないが高かった。シラバスに基づく内容はどちらともいえないが75%であった。
2008年前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：スポーツ競技5) 授業への意欲はどちらともいえないが44%であった。授業のわかりやすさはどちらともいえないが56%、その他の授業内容に関する項目は22%から33%であった。

2008年前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	<p>(授業科目：FYS) 授業への意欲はどちらともいえないが31%であった。授業のシラバスの内容、興味や関心、わかりやすさ、創意工夫、教科書や資料配布、知識や技能の獲得、満足は25%から37%であった。教員の熱意は、88%であった。</p> <p>授業のわかりやすさはどちらともいえないが56%、その他の授業内容に関する項目は22%から33%であった。</p>			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
Effects of the Long Breathing Exercise on the Physical and Mental Conditions in the Elders (査読付)	共著	2012年 8月	The 17th EASESS Annual Congress East Asian Sport and Exercise Science Society	Miyuki NISHIOKA, Shinji ISHIHAMA, Masato IWAMI, Hideaki MURAKAMI, Tetsuji ISHII, Takahiro MUKAIMOTO, Yukio TANAKAI	
せやこども大学「スポーツは遊びから」		2013年 8月	(横浜市瀬谷区)		
操体呼吸法におけるリラックス効果と身体への影響について	共著	2013年 8月	日本体育学会第64回 日本体育学会	石濱慎司, 向本敬洋, 石井哲次, 田中幸夫	

投げ込み練習が身体に及ぼす影響	共著	2013年10月	第17回神奈川県体育学会大会 神奈川県体育学会	林田祐樹、石井哲次	
運動行動変容モデルの体育授業への応用性の検討	共著	2013年10月	第17回神奈川県体育学会大会 神奈川県体育学会	清水安夫、石井哲次、竹腰誠、後藤篤志、山口裕貴、鈴木英夫	
MDC楽しくダイエット大作成		2014年 5月	(横浜市金沢区)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1989年 4月～現在に至る		日本体力医学会(国内学会)会員			
1989年 4月～現在に至る		日本体育学会(国内学会)会員			
1989年 4月～現在に至る		神奈川県体育学会(国内学会)会員			
1991年 4月～現在に至る		神奈川県体育協会スポーツ医科学委員会 スポーツ医科学サポート部会副会長			
1996年 4月～現在に至る		日本運動生理学会(国内学会)会員			
1998年 4月～現在に至る		日本運動スポーツ科学学会(国内学会)会員			
1998年 4月～現在に至る		日本運動スポーツ科学学会(国内学会)評議員			
2003年 4月～現在に至る		NPO法人横浜スポーツ医科学協会 理事長			
2006年 4月～現在に至る		産業保健人間工学学会 認定作業管理士資格認定委員会委員			
2008年 4月～現在に至る		神奈川県体育学会(国内学会)理事			
2009年 4月～現在に至る		個人研究 競技選手の運動能力の向上			
2010年 4月～現在に至る		個人研究 企業従業員のメタボリックシンドローム対策に関する健康増進事業			
2012年 4月～現在に至る		日本近代3種学生連合 理事			
2012年 4月～現在に至る		神奈川県体育学会 理事長兼事務局長			
2012年 4月～現在に至る		神奈川県体育学会(国内学会)理事長兼事務局長			
2013年 4月～現在に至る		機関内共同研究 (神奈川県大学)300,000円 日中の眠気を解消するため実践的な方策検討			
2014年 9月 1日～現在に至る		横浜スケート協会 副会長			
2014年 9月 1日～現在に至る		神奈川県スケート連盟 評議員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 准教授	氏名 間山 広朗	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
講義資料のプロジェクト投影		2002年 4月 1日 ～現在に至る	授業内配布の文字資料を単にプロジェクト投影するだけでなく、授業内にリアルタイムで重要・補足事項を打ち込み、配付資料に記入させることで講義内容の定着を図っている。また、動画データの素早い再生にも活用している。
Eメールを活用したリアクションペーパー		2008年 4月 1日 ～2013年 3月31日	講義形態の授業でも可能な限り双方向的な授業にするために、講義の感想・質問などのEメール送信を求め、翌週にその一部をプロジェクト投影しながら回答している。口頭で伝えるよりも、自分とは他の学生がどのような感想・質問をしているのかを把握しやすいように思われる。
webシステム（神奈川大学dotCampus）を活用した双方向授業		2013年 4月 1日 ～現在に至る	webシステム（神奈川大学dotCampus）を活用し、掲示板への書き込みを課題とし、大人数の講義でも教員－学生間、学生－学生間でのディスカッションを可能とする双方向授業を展開している。（現在に続く）
2 作成した教科書、教材			
「教育学概論2」「現代教育の諸問題」「生徒指導論」等のテキスト		2007年 2月 ～現在に至る	『リーディングス日本の教育と社会第8巻 いじめ・不登校』（日本図書センター）を共同執筆し、中央大学・相模女子大学・立教大学における非常勤講師としての授業、ならびに神奈川大学での授業において活用した。
「現代教育の諸問題」における教材		2008年 5月 ～現在に至る	『質的調査法を学ぶ人のために』（世界思想社）を共同執筆し、立教大学での非常勤講師としての授業に活用した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
学生による授業評価		2006年 4月 1日 ～現在に至る	学生による授業評価の共通した特徴として、配付資料のプロジェクト投影と補足事項のリアルタイムの文字打ち込みが講義理解を助けている点で高評価を得ている点があげられる。また、単に知識の理解・習得ではなく、筆者の専門領域である教育社会学的な視点の興味深さが高評価を得ている点もあげられる。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			

5 その他					
学校ボランティアに関するメーリングリストの運営		2008年 4月 1日 ～現在に至る	神奈川大学教職課程は学校ボランティアについて広く支援している。なかでも教職課程履修学生の所属が全学に及ぶため、教職を目指す学生達の横のつながりをつくるのが有形無形の意義をもっている。そこで、学校ボランティアに参加する学生を中心としたメーリングリストを運営し、意見交換等に活用している。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
【共著（分担執筆）】 『＜教育＞を社会学する』 (北澤毅編, 第3章担当)	共著	2011年 9月	(学文社)		
【共著（分担執筆）】 『文化としての涙－感情経験の社会的探究』 (北澤毅編, 第4章担当)	共著	2012年12月	(勁草書房)		
【共著（分担執筆）】 『社会調査事典』 丸善出版, 436-437頁	共著	2014年 3月	(丸善出版)	社会調査協会編	436-437頁
論文					
【単著】「いじめの定義問題再考－『被害者の立場に立つ』とは」	単著	2011年 9月	学文社 北澤毅編『＜教育＞を社会学する』		98-126頁
【単著】「微笑みあう涙－『発達』の原初形態としての泣きの記述」	単著	2012年12月	勁草書房 北澤毅編『文化としての涙－感情経験の社会的探究』		55-72頁

【単著】「儀式的行事と学校的社会化—学校儀礼の実証的記述をめざして」	単著	2013年 3月	平成22-24年度科学研究費補助金基盤研究(C)報告書『学校的社会化の現状と歴史に関する研究：<児童の成立>の解明に向けて』（研究代表：北澤毅）		67-78頁
【単著】「学級活動の指導法について(1)—学級像と指導法—」	単著	2014年 3月	『神奈川大学 心理・教育研究論集』(35)		27-39頁
【共著】「逸脱から教育問題へ—実証主義・当事者・社会的構成論—」	共著	2014年11月	教育社会学研究 95	白松賢・久保田真功	207-250頁
その他					
【単著】「教育問題への質的アプローチ」	単著	2014年 3月	社会調査協会編『社会調査事典』丸善出版		436-437頁

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
2001年 4月～現在に至る	日本教育社会学会(国内学会) 会員
2009年10月～2011年 9月	日本教育社会学会(国内学会) 事務局企画部員
2010年 4月～2013年 3月	競争的資金等の外部資金による研究(科学研究費補助金基盤研究(C)) 学校的社会化の現状と歴史に関する研究：<児童の成立>の解明に向けて(科研費 基盤(C))
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 700,000円 「基盤研究(B)」 学校的社会化の現代的課題に関する総合的研究：<子ども理解>の制度化に着目して(研究分担者)
2013年 4月～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究(科学研究費補助金基盤研究(B)(研究分担者)) 学校的社会化の現代的課題に関する総合的研究：<子ども理解>の制度化に着目して(科研費 基盤(B))
2013年10月～現在に至る	日本教育社会学会(国内学会) 事務局企画部員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 齋田 真也	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
基礎・専門ゼミナールのゼミ誌の発行		2009年 4月 ～現在に至る	専門ゼミナール1, 2の総仕上げとして毎年それぞれの学年のゼミ誌を発行している。 また、基礎ゼミナールも担当して2010年年度から3013年度までゼミ誌を発行した。		
ドットキャンパスを用いて学生のリアクションペーパーの質問への回答		2010年 4月 ～2014年 3月	前学期の人間科学概論と後学期の認知心理学の毎回のリアクションペーパー内の質問に対して、共通事項を選定して全員に毎回回答。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
眼鏡学ハンドブック (第2章 眼光学、第3章 視知覚と脳科学)	共著	2011年10月	(眼鏡光学出版株式会社)	齋田真也畑田豊彦、白柳守康、大沼一彦、河原哲夫、和氣典二、和氣洋美	
論文					

Improvement of Reading Speed and Change of Eye Movements.	共著	2012年	KANSEI Engineering International 11(3)	Kenji Yokoi, Tsuyoshi Tomita and <u>Shinya Saida</u>	101-107頁
Perception of heading speed from radial flow depends on visual field	共著	2012年	Optical Review 19(4)	K. Sagawa, H. Ujike, K. Okajima and <u>S. Saida</u>	268-275頁
Rapid and Implicit Effects of Color Category on Visual Search.	共著	2012年	Optical Review 19(4)	Kenji Yokoi, Katsumi Watanabe and <u>Shinya Saida</u>	276-281頁
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1975年 4月～現在に至る	日本視覚学会(国内学会)会員
1976年 4月～現在に至る	感覚代行研究会(国内学会)会員
1980年 4月～現在に至る	日本眼光学学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本神経眼科学会(国内学会)会員
1988年 4月～現在に至る	日本人間工学会(国内学会)会員
1994年 4月～現在に至る	日本神経眼科学会(国内学会)評議員
2003年 8月～現在に至る	日本感性工学会(国内学会)会員
2003年11月～現在に至る	日本感性工学会(国内学会)参与
2004年 4月～現在に至る	日本生活支援工学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	日本眼光学学会(国内学会)理事
2008年12月～現在に至る	感覚代行研究会(国内学会)会長
2009年 4月～現在に至る	個人研究 読みにおける有効視野、3次元空間知覚、触覚における仮現運動、両眼眼球運動
2009年 4月～2011年 3月	日本生活支援工学会(国内学会)監査
2009年 4月～2014年 3月	科学研究費補助金 15,890,000円 「基盤 B 一般」 3次元有効視野計測法の開発と、それに基づく人間の視空間情報収集特性の加齢変化 (研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 教授	氏名 梅本 佳代子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
教育心理学教科書編集		2013年 3月 ～現在に至る	「児童生徒理解のための教育心理学」を編集出版した。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
子ども学講座 第1巻 子どもと健康	共著	2011年 3月	(一芸社)	西方毅・本間玖美子編 米倉康江・佐藤倫子、 荻野佳代子ほか著	
経営行動科学ハンドブ ック	共著	2011年11月	(中央経済社)	経営行動科学学会編	
図説 認知行動療法ス テップアップ・ガイド -治療と予防への応用	共著	2011年12月	(金剛出版)	◎野口恭子・小永井カズ江・稲 木康一郎・荻野佳代子・梅景正 ・福井至	
論文					

バーンアウト測定尺度 Maslach Burnout Inventory(MBI-GS)の 概要と日本版について (査読付)	共著	2011年 3月	北陸公衆衛生学会誌 37(2)	◎北岡和代・増田真也・荻野佳 代子・中川秀直	34-40頁
小・中・高校生におけ る自己概念の発達Ⅰ－ 自尊感情育成における ジェンダー視点からの 考察を含めて－	単著	2012年 3月	神奈川大学心理・教育研 究論集 (31)		49-56頁
看護職のワーク・ライ フ・バランス風土に関 する研究－個人変数と の関連－	単著	2012年 3月	人間科学研究年報 6		5-14頁
心理尺度における項目 の方向性とグループ化 の影響 (査読付)	共著	2012年 6月	健康心理学研究 (25)	◎増田真也・北岡和代・荻野佳 代子	31-41頁
小・中・高校生におけ る自己概念の発達Ⅱ－ 自尊感情育成における 他者との関係に焦点を あてて－	単著	2012年11月	神奈川大学心理・教育研 究論集 (32)		37-42頁
学校教育相談における 非行への対応と予防	単著	2013年 3月	心理・教育研究論集 (33)		55-63頁
その他					
教員のメンタルヘルス	単独	2010年12月	教員研修(中央学院高校)		
パートナーシップを築 くためのコミュニケー ション	単独	2013年 2月	男女平等推進学習(川崎 市教育文化会館)		
女性キャリア研修	単独	2013年 3月	ふじみ野市職員研修(ふ じみ野市)		
子どもの変化について の理解	単独	2013年 8月	教員免許更新講習(神奈 川大学)		
子どもの変化について の理解	単独	2014年 8月	教員免許更新講習(神奈 川大学)		

ライフキャリア推進事例紹介	単独	2014年12月	ライフキャリア教育推進フォーラム2014		
神奈川県「男女共同参画の視点によるライフキャリア教育」講座	単独	2014年12月	(東海大学)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1996年 4月～現在に至る		日本心理学会(国内学会)会員			
1997年 4月～現在に至る		日本教育心理学会(国内学会)会員			
1997年 4月～現在に至る		産業・組織心理学会(国内学会)会員			
1998年 4月～現在に至る		経営行動科学学会(国内学会)会員			
2005年 4月～2011年10月		JA長野厚生連 看護職研修講師			
2005年 4月～現在に至る		日本健康心理学会(国内学会)会員			
2006年10月～現在に至る		早稲田大学教員養成GP インテンシブコース 人間理解基盤科目講師			
2007年11月～現在に至る		高崎女子高等学校 エキサイティングサイエンス講師			
2008年 4月～2011年 3月		国内共同研究(科学研究費補助金基盤研究(C))対人援助職の離職を防ぐためのバーンアウトの予防と回復に関する研究			
2008年 4月～2011年 3月		科学研究費補助金 4,896,000円 「基盤研究(C)」対人援助職の離職を防ぐためのバーンアウトの予防と回復に関する研究(研究分担者)			
2009年 4月～2012年 3月		国内共同研究(科学研究費補助金基盤研究(C))対人援助職のワーク・ライフ・バランスへの取り組みとバーンアウト予防に関する研究			
2009年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 1,248,000円 「基盤研究(C)」対人援助職のワーク・ライフ・バランスへの取り組みとバーンアウト予防に関する研究(研究代表者)			
2013年～現在に至る		産業・組織心理学会(国内学会)産業・組織心理学研究編集委員			
2013年 7月 1日～2014年 3月31日		神奈川県 大学における男女共同参画推進プログラム検討委員会 委員			
2014年 9月～現在に至る		神奈川県 大学におけるライフキャリア教育支援事業実行委員会 委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 准教授	氏名 衣笠 竜太	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
運動生理学のニューエ ビデンス	共著	2010年11月	(真興交易(株)医書出 版部)		92-96頁

Imaging Studies of the Mechanical and Architectural Characteristics of the Human Achilles Tendon in Normal, Unloaded and Rehabilitating Conditions. (査読付)	共著	2012年 3月	(Achilles Tendon, Intech)	Shantanu Sinha, <u>Ryuta Kinugasa</u>	1-20頁
論文					
Reduction in Tendon Elasticity from Unloading is unrelated to its Hypertrophy (査読付)	共著	2010年 9月	Journal of Applied Physiology 109(3)	<u>Ryuta Kinugasa</u> , John A. Hodgson, V. Reggie Edgerton, David D. Shin, Shantanu Sinha	870-877頁
クロスカントリースキークのスタート局面におけるクラシカル走法の技術の特徴 (査読付)	共著	2011年 1月	スポーツ科学研究 8	藤田善也, 石毛勇介, 吉岡伸輔, <u>衣笠竜太</u> , 土屋純	3-11頁
Relationship between quadriceps femoris muscle volume and muscle torque after anterior cruciate ligament rupture. (査読付)	共著	2011年 4月	Knee Surgery Sports Traumatology Arthroscopy 19(4)	Yu Konishi, Toshiaki Oda, Satoshi Tsukazaki, <u>Ryuta Kinugasa</u> , Norikazu Hirose, Toru Fukubayashi	641-645頁
Relationship between quadriceps femoris muscle volume and muscle torque at least 18 months after ACL reconstruction (査読付)	共著	2011年 6月	Scandinavian Journal of Medicine and Science in Sports	Yu Konishi, Toshiaki Oda, Satoshi Tsukazaki, <u>Ryuta Kinugasa</u> , Toru Fukubayashi	

Unique Spatial Distribution of In Vivo Human Muscle Activation (査読付)	共著	2011年 7月	Experimental Physiology	<u>Ryuta Kinugasa</u> , Yasuo Kawakami, Shantanu Sinha, Tetsuo Fukunaga	
Relationship between muscle volume and muscle torque of the hamstrings after anterior cruciate ligament lesion. (査読付)	共著	2012年 1月	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.		
Asymmetrical Deformation of Contracting Human Gastrocnemius Muscle. (査読付)	共著	2012年 2月	J Appl Physiol. 112(3)	<u>Ryuta Kinugasa</u> , John A. Hodgson, V. Reggie Edgerton, Shantanu Sinha	463-470頁
A Computer-controlled, MR-compatible foot-pedal device to study dynamics of the muscle tendon complex under isometric, concentric, and eccentric contractions. (査読付)	共著	2012年 8月	J Magn Reson Imaging. 36(2)	Shantanu Sinha, David D. Shin, John A. Hodgson, <u>Ryuta Kinugasa</u> , V. Reggie Edgerton.	498-504頁
Interaponeurosis shear strain modulates behavior of myotendinous junction of the human triceps surae. (査読付)	共著	2013年11月	Physiol Rep 6	<u>Kinugasa R</u> , Oda T, Komatsu T, Edgerton VR, Sinha S.	e00147頁
その他					

スポーツ科学演習（大学院科目）	単著	2010年	早稲田大学		
スポーツ科学研究推進費	単著	2010年	早稲田大学スポーツ科学 学術院		
スポーツ英語（学部科目）	単著	2010年	早稲田大学		
国際交流助成	単著	2010年	（財）日学科学技術進行 記念財団		
国際交流活動助成	単著	2010年	（財）御器谷科学技術財 団		
情報処理（学部科目）	単著	2010年	早稲田大学		
教養演習1（学部科目）	単著	2010年	早稲田大学		
教養演習2（学部科目）	単著	2010年	早稲田大学		
論文作成技法（大学院科目）	単著	2010年	早稲田大学		
野外活動実習（学部科目）	単著	2010年	早稲田大学		
Reducesd Stiffness is Uncorrelated to Tendon Hypertrophy Resulting From Unloading of LowerLeg Limb	共著	2010年 6月	15 t h annual Congress of the European College of Sport Science (Antalya Turkey)	Ryuta Kinugasa, Dativ Shin, John A. Hodson, V. Reggie Edgerton, Shantanu Sinha	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
2000年 1月～現在に至る	日本体力医学会(国内学会)会員				
2001年 6月～現在に至る	日本運動・スポーツ科学学会(国内学会)会員				
2003年 2月～現在に至る	アメリカスポーツ医学会(国内学会)会員				
2003年 4月～現在に至る	日本運動・スポーツ科学学会(国内学会)理事				
2006年 4月～現在に至る	アメリカ生理学会(国際学会)会員				

2007年 4月～現在に至る	国際共同研究 (NIH) ヒト関節運動の動作メカニズムの統合的解明
2008年 4月～現在に至る	国際共同研究 (科研費等) 加齢に伴う筋・腱組織の収縮動態の変化
2008年 4月～2011年 3月	科学研究費補助金 3,640,000円 「基盤研究C」 加齢に伴う筋腱複合体の形態・力学特性の変化 (研究代表者)
2009年 4月～現在に至る	国内共同研究 (次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム) 有限要素法による筋骨格系シミュレータの開発
2009年 9月～現在に至る	国内共同研究 (防衛大学校) 前十字靭帯損傷患者の筋力低下に及ぼす筋活動の三次元分布の影響
2010年 6月～2010年 6月	その他の補助金・助成金 ((財) 御器谷科学技術財団) 150,000円 「国際交流活動助成」 第15回ヨーロッパスポーツ科学国際会議での発表 (研究代表者)
2010年 6月～2010年 6月	その他の補助金・助成金 ((財) 日学科学技術振興記念財団) 200,000円 「国際交流助成」 第15回ヨーロッパスポーツ科学国際会議での【ヒト筋・腱組織の局所変形を生体計測する新しいMRI技術】の研究発表とエクス・マルセイユ第2大学医学部MRIセンターでの研究交流 (研究代表者)
2010年 8月～2011年 1月	国内共同研究 (国立極地研究所, 北海道大学低温科学研究所) 寒冷環境がヒト生理機能へ及ぼす影響の検討
2010年 9月～2011年 3月	その他の補助金・助成金 (早稲田大学スポーツ科学学術院) 4,100,000円 「スポーツ科学研究推進費」 最先端MRIを用いた筋束の収縮動態の評価・定量システムの確立 (研究代表者)
2011年 2月～現在に至る	国内共同研究 (電気通信大学) 筋膜 (fascia) と筋外膜 (epimysium) がラット前脛骨筋の張力発揮に及ぼす影響
2011年 4月～現在に至る	国内共同研究 (理研-東海ゴム) ロボットによる介護動作の筋骨格系シミュレータを用いた評価方法の研究
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 3,500,000円 「若手研究B」 高齢者の足関節底屈・背屈の動作不全のメカニズム解明 (研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 助教	氏名 榎野 早織	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2008年 6月～現在に至る		日本スポーツ教育学会(国内学会)会員			
2008年 7月～現在に至る		運動・スポーツ科学学会(国内学会)会員			

2010年 8月～2010年 8月	平成22年度日本体育大学教員免許状更新講習助手
2010年 8月～2010年 8月	東京都教職員研修センター教科等・教育課題研修保健体育（ボール運動）助手

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 准教授	氏名 前原 吾朗	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
The effects of flankers on contrast detection and discrimination in binocular, monocular, and dichoptic presentations (査読付)	共著	2010年 4月		Maehara, G., Huang, P-C., & Hess, R . F.	

Quantifying sensory eye dominance in the normal visual system:a new technique and insights into variation across traditional tests	共著	2010年12月		Li, J. , Lam, C. , Yu, M. , Hess, R. F. , Chan, L. , Maehara, G. , Woo, G. , &Thompson, B.	
A compact clinical instrument for quantifying suppression	共著	2011年 2月		Black, J. M. , Thompson, B. , Maehara G. &Hess, R. F.	
Does cognitive perception have access to brief temporal events?	共著	2011年 5月	i-Perception, 2 (2), 142-149	Hess, R. F. &Maehara, G.	
A game platform for treatment of amblyopia	共著	2011年 6月		To, L. , Thompson, B. , Blum, J. R. , Maehara, G. , Hess, R. F. , &Cooperstock J. R.	
The role of suppression in amblyopia	共著	2011年 6月		Li J. , Thompson, B. , Lam, C. , Deng, D. , Chan, L. , Maehara, G. , Woo, G. , Yu, M. , &Hess, R. F.	
An iPod treatment for amblyopia: An updated binocular approach (査読付)	共著	2012年 2月	Optometry 83 (2)	Hess, R. F. , Thompson, B. , Black, J. M. , Maehara, G. , Zhang, P. , Bobier, W. R. , To, L. , & Cooperstock, J.	87-94頁
Pattern masking: The importance of remote spatial frequencies and their phase alignment. (査読付)	共著	2012年 2月	Journal of Vision 12 (2): 14	Huang, P-C. , Maehara, G. , May, K. A. , & Hess, R. F.	1-13頁
その他					
学会発表：両眼、単眼、両眼分離呈示条件における運動方向弁別閾	共著	2010年11月	第29回日本基礎心理学会大会、関西学院大学	前原吾朗、Robert F. Hess, Mark A. Georgeson.	

学会発表：Direction discrimination thresholds in binocular, monocular, and dichoptic viewing: motion opponency and contrast gain control	共著	2011年 5月	Vision Sciences Society. Naples, FL, USA.	Maehara, G. , Hess, R. F. , & Georgeson, M. A.	
学会発表：心理物理学に基づいた弱視研究	単著	2011年 9月	第75回日本心理学会大会, 日本大学		
学会発表：単眼視及び両眼分離視における弱視患者のコントラスト閾	単著	2012年 9月	日本心理学会第76回大会, 専修大学		
講演、シンポジウム等：弱視の症状理解と治療法開発：実験心理学的アプローチ	単著	2012年10月	金沢大学人間社会研究域 特定研究<認知科学>セミナー, 金沢大学附属病院		
学会発表：弱視の症状理解と治療法開発：実験心理学的アプローチ	単著	2013年 7月	第69回日本弱視斜視学会, 広島国際会議場		
学会発表：斜め縞服は太って見える	共著	2013年 9月	第77回日本心理学会大会, 札幌市産業振興センター		
講演、シンポジウム等：弱視の症状理解と援助法開発：実験心理学的アプローチ	単著	2013年 9月	生理学研究所研究会「視知覚の現象・機能・メカニズム - 生理学的、心理物理学的、計算論的アプローチ」、自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター		

触覚における Radial Frequency 成分検出関	共著	2013年12月	第32回日本基礎心理学会大会, 金沢市文化ホール		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1998年 4月～現在に至る		日本基礎心理学会 会員			
1999年 4月～現在に至る		日本心理学会 会員			
2003年12月～現在に至る		Vision Sciences Society 会員			
2009年 4月～2012年 3月		平成21年度 日本学術振興会科学研究費補助金 特別研究員奨励費			
2009年12月～現在に至る		日本学術振興会 優秀若手研究者海外派遣事業採択			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 助教	氏名 新井 典子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
理論と実践をつなぐ授業		2012年 4月 ～現在に至る	生涯発達心理学、家族心理学、児童心理学の授業では、授業で学ぶ内容が理解しやすいように、具体例を多く用いて解説している。大学で学んだことと実践現場で行われていることとの乖離を避けるために、社会問題をテーマにした視聴覚教材を用いて、グループディスカッションを行っている。		
臨床感覚を養う体験学習		2013年 4月 ～現在に至る	ゼミナールでは、地域の子どもの関係機関（学童保育や保育園、子育てサロンや療育機関等）のボランティア体験を取り入れている。実践現場での経験は、現状や問題点、ニーズを直接的に知ることができ、学生の問題意識をはぐくむことができる。また、現場のスタッフと共に活動することで、臨床現場での援助姿勢を体得し、臨床感覚を養うことができる。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
新・発達心理学ハンド ブック	共著	2013年 1月	(福村出版)	田島信元・岩立志津夫・長崎勤	pp. 10頁

論文					
母親は乳児をどうタッチするか？：麻生・岩立（2006）との比較を通して	共著	2011年 3月	日本女子大学紀要 人間社会学部（第21号）	岩立志津夫	pp. 51-61頁
生後4か月をもつ母親におけるタッチの養育場面間の相違：母親の出産経験、授乳方法の違いに注目して	共著	2011年 7月	小児保健研究 Vol, 70 (4)	岩立志津夫	pp. 506-514頁
乳児を持つ母親のタッチの種類と精神的健康との関連：タッチをいつもする母親としない母親を基準とした比較	共著	2012年 3月	日本女子大学紀要 人間社会学部、第22号	岩立志津夫	61-73頁
Differences in Japanese mothers' touch of their 4 month-old infants based on the result gleaned from a questionnaire survey by nurturing scenes:focusing on playing, crying, feeding, and putting infants to sleep scenes,	共著	2012年12月	Japanese Journal of Applied Psychology Special Edition, Vol. 38	岩立志津夫	
その他					

(学会発表) Differences in Japanese mother's touch by nurturing scenes::focusing on playing, crying, feeding, putting infants to sleep scenes.	共著	2010年 7月	27th International Congress of Applied Psychology,メルボルン	岩立志津夫	p. 1120頁
(学会発表) 乳幼児に対する母親のネガティブ・タッチ：健常群の母親と虐待予備軍の母親との比較を通して	単著	2010年 9月	第29回日本心理臨床学会秋期大会、東北大学		p. 301頁
(学会発表) 乳児に対する母親のタッチと精神的健康との関連	共著	2010年11月	日本教育心理学会第52回総会、早稲田大学	岩立志津夫	p. 628頁
(学会発表) 虐待予備軍の母親におけるタッチの事例的検討：タッチは虐待予防のインデックスになりえるか？	共著	2010年11月	日本子ども虐待防止学会第16回学術集会、熊本劇場	岩立志津夫	p. 151頁
(ラウンドテーブル) 地域の虐待予防活動における多職種の協働への課題：実践現場から聞こえてくること		2011年 3月	日本発達心理学会第22回大会、東京学芸大学		p. 89頁
(学会発表) Differences in Japanese mother's touching of their 4 month-old infants among nurturing scenes:focusing on differences in mother's birth experience and feeding method.	共著	2011年 3月	Society for the Research in Child Development 2011 Biennial Meeting, モントリオール	岩立志津夫	p. 66頁

(学会発表) 母親は乳児をどのようにタッチするか? : タッチタイプと身体部位に注目して	共著	2011年 3月	日本発達心理学会第22回大会、東京学芸大学	岩立志津夫	p. 219頁
地域の子育て支援におけるタッチコミュニケーション・プログラムを用いた臨床的介入: プログラムの開発から実践まで	単著	2011年 7月	臨床心理士報 Vol. 22 (2)		pp. 45-46頁
(学会発表) 生後4か月児をもつ母親におけるタッチ評定尺度の作成の試み	共著	2011年 9月	日本心理学会第75回大会、日本大学	岩立志津夫	p. 1064頁
地域の虐待予防活動における多職種役割: 事例を通して協働の意義を考える	単著	2012年 3月	日本発達心理学会第23回大会、名古屋国際会議場		50頁
虐待予防における気になる親子の視点	単著	2012年 3月	日本発達心理学会第23回大会、名古屋国際会議場		148頁
子育て支援におけるタッチコミュニケーションプログラムの実践: 乳児を対象として	単著	2012年 9月			
母親の育児ストレスと抑うつが乳児へのタッチに及ぼす影響: 出産経験の違いを中心に	共著	2013年 3月		麻生典子・岩立志津夫	

Influences of maternal mental health on infant touch:focusing childcare support, depression, and childrearing stress.	共著	2013年 4月		Noriko Aso・Iwatate Shizuo	
虐待予防における身体接触を用いたペアレント・トレーニングの実践：養育困難な母親を対象として	単著	2013年 8月			
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2001年 4月～現在に至る		日本発達心理学会 会員			
2001年 4月～現在に至る		日本発達心理学会(国内学会)会員			
2002年 2月～現在に至る		日本家族心理学会 会員			
2002年 2月～現在に至る		日本家族心理学会(国内学会)会員			
2002年 4月～現在に至る		日本教育心理学会 会員			
2002年 4月～現在に至る		日本教育心理学会(国内学会)会員			
2004年 4月～現在に至る		日本助産師学会 会員			
2004年 4月～現在に至る		日本心理学会 会員			
2004年 4月～現在に至る		日本心理学会(国内学会)会員			
2004年 4月～現在に至る		日本心理臨床学会 会員			
2004年 4月～現在に至る		日本心理臨床学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		日本小児保健協会 会員			
2005年 4月～現在に至る		日本小児保健協会(国内学会)会員			
2007年 2月～現在に至る		住友生命未来を築く子育てプロジェクト 女性研究者支援受賞2000,000円(乳児をもつ母親のネガティブタッチ評定尺度作成の試み)			
2007年 6月～現在に至る		大和市保育家庭課家庭児童相談室虐待予防教室 マザーグループ ファシリテーター			
2007年10月～現在に至る		大和市次世代育成支援対策推進法8条 次世代育成支援計画：やまとげきんこプラン つどいの広場事業こどもーる心理相談員			
2008年 3月～現在に至る		大和市こども総務課こどもーる研修会 講師			
2010年 1月～現在に至る		International Association of Applied Psychology 会員			
2010年 1月～現在に至る		International Association of Applied Psychology(国際学会)会員			

2010年 1月～現在に至る	Society for the Research in Child Development 会員
2010年 1月～現在に至る	Societyfor the Research in Child Development(国際学会)会員
2010年 1月～現在に至る	日本応用心理学会 会員
2010年 1月～現在に至る	日本応用心理学会(国内学会)会員
2010年 2月～現在に至る	大和市こども総務課こどもーる研修会 講師
2010年 2月～現在に至る	日本助産師会母子訪問スキルアップ研修会 講師
2010年 3月～現在に至る	日本女子大学成瀬仁蔵先生記念賞受賞 100,000円 (乳児を持つ母親におけるタッチの心理学的研究)
2010年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 -1,294,967,296円 「文部科学省科学研究費補助金・基礎研究(c)」タッチ評価尺度による虐待予備軍のスクリーニングと臨床発達の介入 (研究代表者)
2010年 5月～現在に至る	大和市保育家庭課虐待予防教室研修会 講師
2010年10月～現在に至る	日本子ども虐待防止学会 会員
2010年10月～現在に至る	日本子ども虐待防止学会(国内学会)会員
2010年11月～現在に至る	その他の補助金・助成金 (財団法人日本臨床心理士資格認定協会)2,000,000,000円 「平成22年度研究助成重点研究」地域の子育て支援におけるタッチ・コミュニケーションプログラムを用いた臨床的介入：プログラムの開発から実践まで (研究代表者)
2011年 1月～現在に至る	大和市保育家庭課 児童虐待予防事業「ファンクショナルルータッチ ペアレンティング プログラム (FTP) 講師
2011年 1月～現在に至る	大和市生涯学習センター桜ヶ丘 保育ボランティア講座 講師
2011年 2月～現在に至る	日本助産師会母子訪問スキルアップ研修会 講師
2011年 2月～現在に至る	日本女子大学西生田生涯学習センター心理学公開講座 講師
2012年 1月～現在に至る	Kobe Boys Town Common Sense Parenting Parent Trainer 資格取得
2012年 1月～現在に至る	社会福祉法人厚生館福祉会 第二厚生館愛児園職員研修会 講師
2012年 2月～現在に至る	大和市こども総務課こどもーる研修会 講師
2012年 4月～現在に至る	大和市保育家庭課Common Sense Parenting (「怒鳴らない子育て」講座) 講師
2012年 7月～現在に至る	社会福祉法人 厚生館福祉会厚生館愛児園職員研修会 講師
2013年 9月～現在に至る	相模原市公立保育園職員研修会 講師
2014年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 468,000円 「基盤研究c」子どもの叱り方尺度の作成とタッチを用いた怒鳴らない叩かない子育てプログラムの実践 (研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 特任教授	氏名 澤田 敏志	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
教職への道		2014年 2月 1日	教職論を学ぶ学生のためのテキストとして作成した。教職論の授業担当者で分担執筆したものを編集した。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
神奈川大学教員免許状更新講習「最新の教育事情」において講義を担当した		2011年 8月 ～2014年 8月	4年間連続して、学校内外の連携協力について「相互啓発と自己研修を中心に」との副題を設けて講義した。公立学校と私立学校での実践例を紹介して連携協力の必要を伝えることに務めた。		
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
教職への道	共著	2014年 2月	(神奈川大学生協)	石川勇喜 大場裕二 福島睦恵 石井悦夫 高橋和夫 本間利夫 川松恭治 小林一彦	1-94頁
論文					
学校教育における「特別活動」再考の視点	単著	2012年 9月	神奈川大学人文学研究所 報 (48)		25-34頁

“社会科の願い”を繋ぐ中高接続のための考察	単著	2012年12月	神奈川大学心理・教育論集 (32)		5-16頁
教員に求められる“連携協力”についての一考察	単著	2013年 2月	神奈川大学心理・教育論集 (33)		5-15頁
その他					
相談室の窓 ～公立学校の教育相談室から見た中学生の姿～	単著	2013年 2月	神奈川大学心理・教育論集 (33)		123-133頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1977年 4月～現在に至る		横浜市中学校教育課程研究協議会 委員			
1979年 4月～現在に至る		日本社会科教育学学会(国内学会)会員			
2003年 4月～現在に至る		神奈川大学高大連携協議会 副議長			
2008年 4月～現在に至る		神奈川県高等学校体育連盟なぎなた専門部 部長			
2009年 4月～2011年 3月		横浜市私立中学高等学校長協会 理事			
2011年 4月～現在に至る		横浜市私立中学高等学校長協会 副会長			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科		職名 特任教授	氏名 市井 眞知子		大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
不登校を予防するには ・登校につなげるには	単著	2010年10月	町田市立堺中学校PTA地 区懇談会 於：同中学校 多目的ホール		
III 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
1987年 4月～現在に至る	日本心理臨床学会 会員
1991年 4月～現在に至る	日本臨床心理士会 会員
2006年 4月～現在に至る	東京臨床心理士会 会員
2008年 4月～現在に至る	東京学校臨床心理研究会 会員
2008年 4月～現在に至る	東京学校臨床心理研究会 町田市SC地域会世話人補佐
2009年 4月～現在に至る	東京学校臨床心理研究会 稲城市・多摩市SC地域会世話人

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 特任教授	氏名 高田 幸一	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2008年 5月～2012年 5月		(任) 全国国際教育研究協議会 会長			
2009年 5月～2012年 5月		(財) 全国高等学校体育連盟 全国バスケットボール専門部長			

2012年 4月～現在に至る	(財) 日本バスケットボール協会 JBA公認B級コーチ
2012年 4月～現在に至る	(NPO法人) 国際教育協会 理事

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科		職名 特任助教	氏名 横山 貴史		大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
北海道函館市南茅部に おけるコンブ養殖業の 地域差	単著	2011年11月	地理学評論(日本地理学 会)、84巻6号		610-625頁
山形県朝日町における エコミュージアム活動 による地域振興	共著	2011年12月	地理空間(地理空間学会)4巻2号	田林明、横山貴史、大石貴之、 栗林賢	34-68頁
北茨城市平潟町におけ る漁業地域の変容	共著	2012年 3月	地域研究年報(筑波大学)34号	市川康夫、横山貴史、杉野弘明 、橋本暁子、水島卓磨、木村昌 司、田林明	1-37頁

A Geographical Study on the Sustainable Use of Oyster Farming Grounds:A Case Study of Ishinomaki-Toubu District, Ishinomaki City, Miyagi Prefecture, Japan (カキ養殖漁場の持続的利用に関する地理学的研究—宮城県石巻市石巻東部地区を事例として—)	単著	2012年10月	博士学位請求論文 (筑波大学)		
黒部市生地地区における漁業の変遷と地域資源を活用した漁村地域活性化の取り組み	共著	2013年 2月	人文地理学研究 (筑波大学)	横山貴史、橋爪孝介、村上翔太、藤永豪、吉田国光、田林明	
その他					
Change in laminaria production by the introduction of aquaculture in Minamikayabe, Hakodate city, Hokkaido.	単著	2010年11月	The 5th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography		
宮城県石巻市におけるカキ養殖業の展開と集团的漁場利用	単著	2010年11月	人文地理学会2010年大会		
漁村の復興と課題—宮城県牡鹿半島カキ養殖漁村の事例—	単著	2011年 5月	第58回経済地理学会大会		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
2006年 4月～現在に至る	茨城地理学会 会員				
2008年 4月～現在に至る	人文地理学会 会員				

2008年 4月～現在に至る	地理空間学会 会員
2008年 4月～現在に至る	日本地理学会 会員
2009年 4月～現在に至る	地理空間学会 会計委員
2011年 7月～現在に至る	経済地理学会 会員
2012年 8月～現在に至る	茨城地理学会 集会委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 特任教授	氏名 川上 満幸	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
ハンズフリーシステム による会話と発着信操 作が自動車運転に与え る影響 (査読付)	共著	2011年 1月	日本機械学会論文集 (C 編) 74 (740)		
脳波計測による職務充 実に関する研究-VDT 作業への応用- (査読 付)	共著	2011年 5月	産業保健人間工学研究, 12 (1),		

生理指標による職務拡大に関する研究 (査読付)	共著	2011年10月	日本経営工学会論文誌, 62(4),		
移動式放射冷房装置の有効性と快適性 (査読付)	共著	2011年11月	人間と生活環境, 18(2),		
心理生理指標による職務充実に関する研究 (査読付)	共著	2012年 7月	日本機械学会論文集C編, 78(791),		
その他					
Effectiveness of mobile radiation cooling panel (査読付)	共著	2010年 6月	NES Annual Congress,		
A Basic Study on Model of Human Behavior by Visual Information Processing Mechanism for Reliability-Based System Design (査読付)	共著	2010年 7月	International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics,		
Effects of Cell Phone Conversations on Driving Performance in Japan (査読付)	共著	2010年 7月	International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics,		
Special paint applications for energy saving and CO2 emission reduction in winter (査読付)	共著	2010年10月	Advanced Energy Studies,		

セラミック系材料等を活用した省エネルギー型都市環境対策システムの構築報告書	共著	2011年 3月	東京都カーボンマイナス10年プロジェクト・東京都環境局（平成20～22年度東京都環境局受託）		
Development of radiation cooling panel for energy conservation (査読付)	共著	2011年10月	International Symposium on Environmental Management,		
Basic Study for Promoting Driving Safety Support Systems among Elderly Drivers (査読付)	共著	2013年 7月	2013 International Conference on Biometrics and Kansei Engineering,		
Evaluation of the energy-saving performance of heat-resistant paint in winter (査読付)	共著	2013年 8月	10th Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics,		
Study on information display in driving support devices (査読付)	共著	2013年 8月	10th Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics,		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1997年 6月～現在に至る	(社) 日本経営工学会 評議員				
1998年 4月～現在に至る	日本人間工学会 評議会				
1999年 4月～現在に至る	Asian Journal of Ergonomic, Editorial Board.				
1999年 4月～現在に至る	産業保健人間工学会 理事				
1999年 4月～2011年 3月	(財) 高齢者雇用開発協会高齢者職業能力発揮サポートシステム研究会 委員 (労働省委託)				
2003年 6月～現在に至る	日本人間工学会 認定人間工学専門家 (第39号)				
2006年 4月～2011年 3月	東京商工会議所経営大賞 審査員				
2006年 4月～現在に至る	(独) 高齢障害者雇用支援機構研究開発 審査員				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 人間科学部人間科学科	職名 特任准教授	氏名 比佐 隆三	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年 月		内 容			
1999年 4月～2014年 3月		神奈川県高等学校 社会研究会 地理部会 顧問			
2011年 7月～2011年 7月		神奈川県高等学校 社会研究会 地理部会主催 海外巡検(ロシア) 団長			